

教 職 員 調 查 結 果

調査の概要

教職員調査

調査の概要

1．調査の目的

この調査は、苅田町における男女共同参画について町民の意識と実態を把握し、第2次苅田町男女共同参画行動計画策定のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2．調査項目

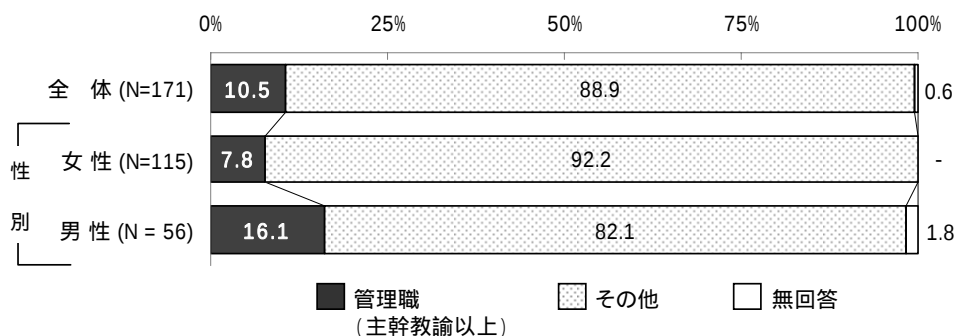
- (1) 男女共同参画に関する考え方について
- (2) 家庭生活について
- (3) 職業について
- (4) 暴力などの人権侵害について
- (5) 社会活動への参画について
- (6) 男女共同参画社会の実現に向けて

3．調査の性格

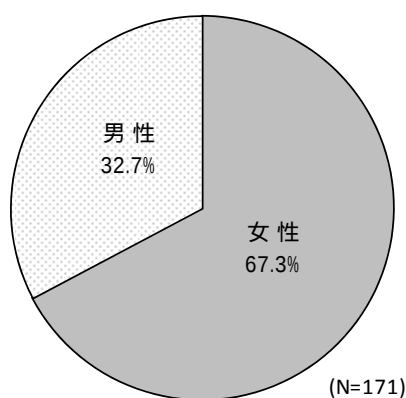
- | | |
|----------------|--|
| (1) 調査地域 | 苅田町全域 |
| (2) 調査対象者 | 苅田町内小・中学校教職員全員 206人 |
| (3) 回収率 | 有効回収数 171人 有効回収率 83.0% |
| (4) 抽出方法 | 苅田町内小学校及び中学校に勤務する教職員全員 |
| (5) 調査方法 | 小・中学校で配布し、所定の場所に提出してもらい、後日、係員が学校で回収 |
| (6) 調査期間 | 平成23年9月7日～9月26日 |
| (7) 調査企画 | 苅田町総務部人権男女共同参画課 |
| (8) 調査実施機関 | (株)西日本新聞社 マーケティング室 |
| (9) 調査結果の分析と監修 | 分析 阪井 俊文
(NPO法人福岡ジェンダー研究所嘱託研究員・九州女子大学非常勤講師)
監修 横山 美栄子
(広島大学ハラスメント相談室長・教授) |

4. 標本特性

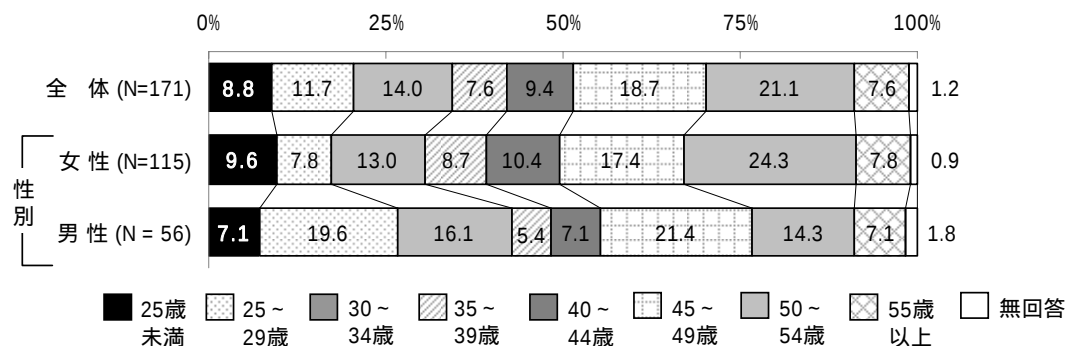
役 職



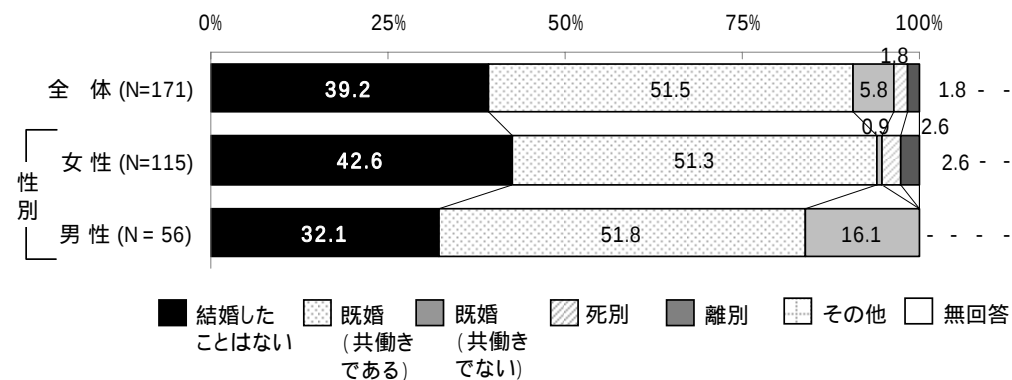
性 別



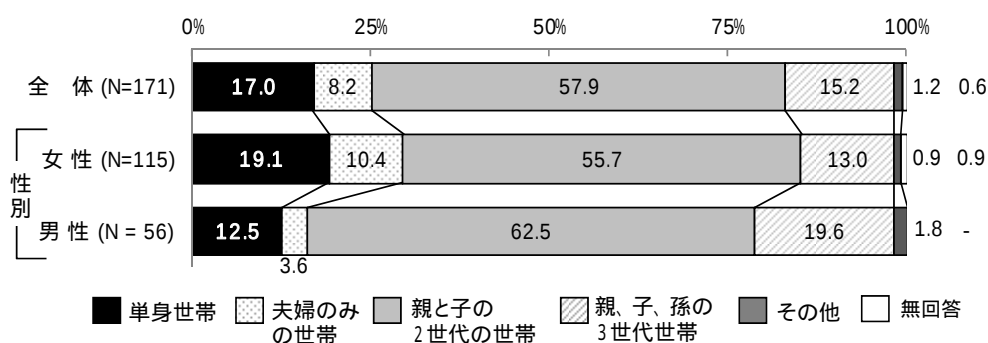
年 齢



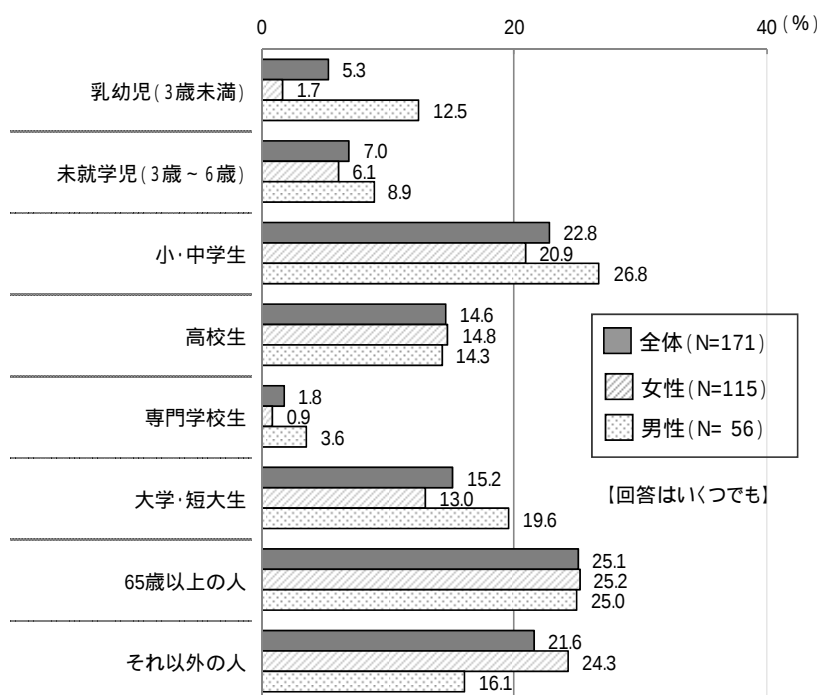
配偶関係



世帯状況



同居家族



5. 調査結果利用上の注意

- (1) 数表、図表に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。
- (2) 文中の数字は、百分比の小数以下第2位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも100%とはならない。
- (3) 2つ以上の回答を要する(複数回答)質問の場合、その回答比率の合計は原則として100%を超える。
- (4) 数表中の「-」は、該当する選択肢の回答がないことを示す。
- (5) 付問、付問○-○等は、前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。
- (6) 文中の選択肢の表記は「 」で行い、選択肢のうち2つ以上のものを合計して表す場合は『 』とした。

調査結果の分析

教職員調査

調査結果の分析 教職員

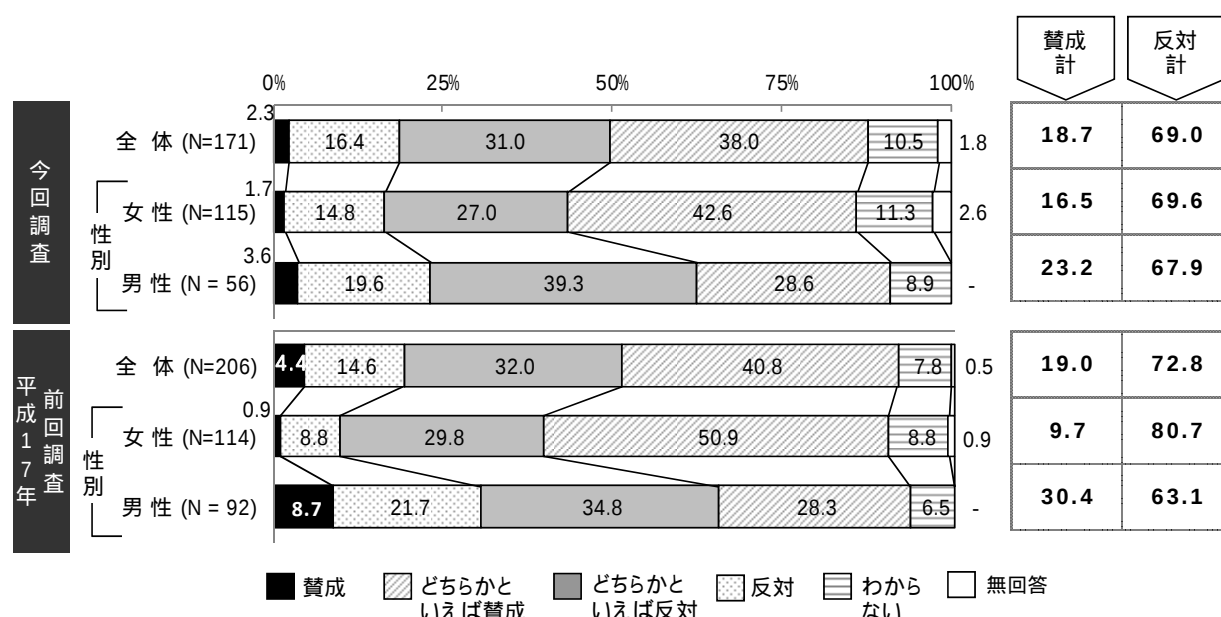
第1章 男女共同参画に関する考え方について

1. 性別役割分担意識

問1. 「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○印は1つ)

- 性別役割分担に『反対』は男女とも約7割。
- 前回調査と比べると女性は『賛成』、男性は『反対』が増加している。

図1-1 性別役割分担意識 [全体、性別] (前回調査比較)



「男は外で働き、女性は家庭を守るべきである」という性別役割分担意識について「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた性別役割分担に『賛成』の人は18.7%、一方、「反対」「どちらかといえば反対」の合計は69.0%と性別役割分担に『反対』の人の方が50.3ポイントも上回っており、教職員でこの考えを容認する人は少ないといえる。

性別にみると、性別役割分担に『反対』の女性は69.6%、男性は67.9%とあまり大差はないが、『賛成』をみると女性が16.5%に対し、男性は23.2%と男性に容認する人がやや多い。

平成17年に実施された「男女共同参画に関する意識調査」【教員】(以下、「前回調査」という)と比較すると、女性は性別役割分担に『反対』が前回調査の80.7%から11.1ポイント減少し、『賛成』や「わからない」人が増えている。一方、男性は『反対』は前回調査の63.1%から4.8ポイント増加し、『賛成』は30.4%から7.2ポイント減少しており、この5年間で女性は容認する人が、男性は容認しない人が増加する結果となっている。

属性別特徴

年代別にみると、男女とも 50 歳以上で『反対』が 8 割台と高いがその他の年代では 5 ～ 7 割台で、特に女性の 20 歳代と 30 歳代では 5 割台と同年代の男性よりも 1 割程度低くなっている。

表 1 - 1 性別役割分担意識 [全体、年代別]

(%)

		標 本 数	賛 成	え ど ち ら か と い	え ど ち ら か と い	反 対	わ か ら な い	無 回 答	賛 成 計	反 対 計
全 体		171 100.0	4 2.3	28 16.4	53 31.0	65 38.0	18 10.5	3 1.8	32 18.7	118 69.0
年 代 別	女性:20歳代	20	-	20.0	20.0	35.0	20.0	5.0	20.0	55.0
	女性:30歳代	25	8.0	24.0	24.0	32.0	8.0	4.0	32.0	56.0
	女性:40歳代	32	-	12.5	25.0	46.9	12.5	3.1	12.5	71.9
	女性:50歳以上	37	-	8.1	35.1	48.6	8.1	-	8.1	83.7
	男性:20歳代	15	6.7	13.3	40.0	26.7	13.3	-	20.0	66.7
	男性:30歳代	12	-	25.0	41.7	25.0	8.3	-	25.0	66.7
	男性:40歳代	16	6.3	18.8	37.5	25.0	12.5	-	25.1	62.5
	男性:50歳以上	12	-	16.7	41.7	41.7	-	-	16.7	83.4
	無回答	2	-	50.0	-	50.0	-	-	50.0	50.0

2. 男女の地位の平等感

問2. あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)～(ク)の分野ごとに、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
(○印は1つつ)

- 男性は「平等」が高く、女性は『男性優位』が高い傾向がある。
- 前回調査に比べ、「家庭」「学校」「地域・社会活動」「法律や制度」「社会通念・慣習・しきたり」などでは男女とも平等感が感じられている。

図1-2(1) 男女の地位の平等感[全体、性別](前回調査比較)

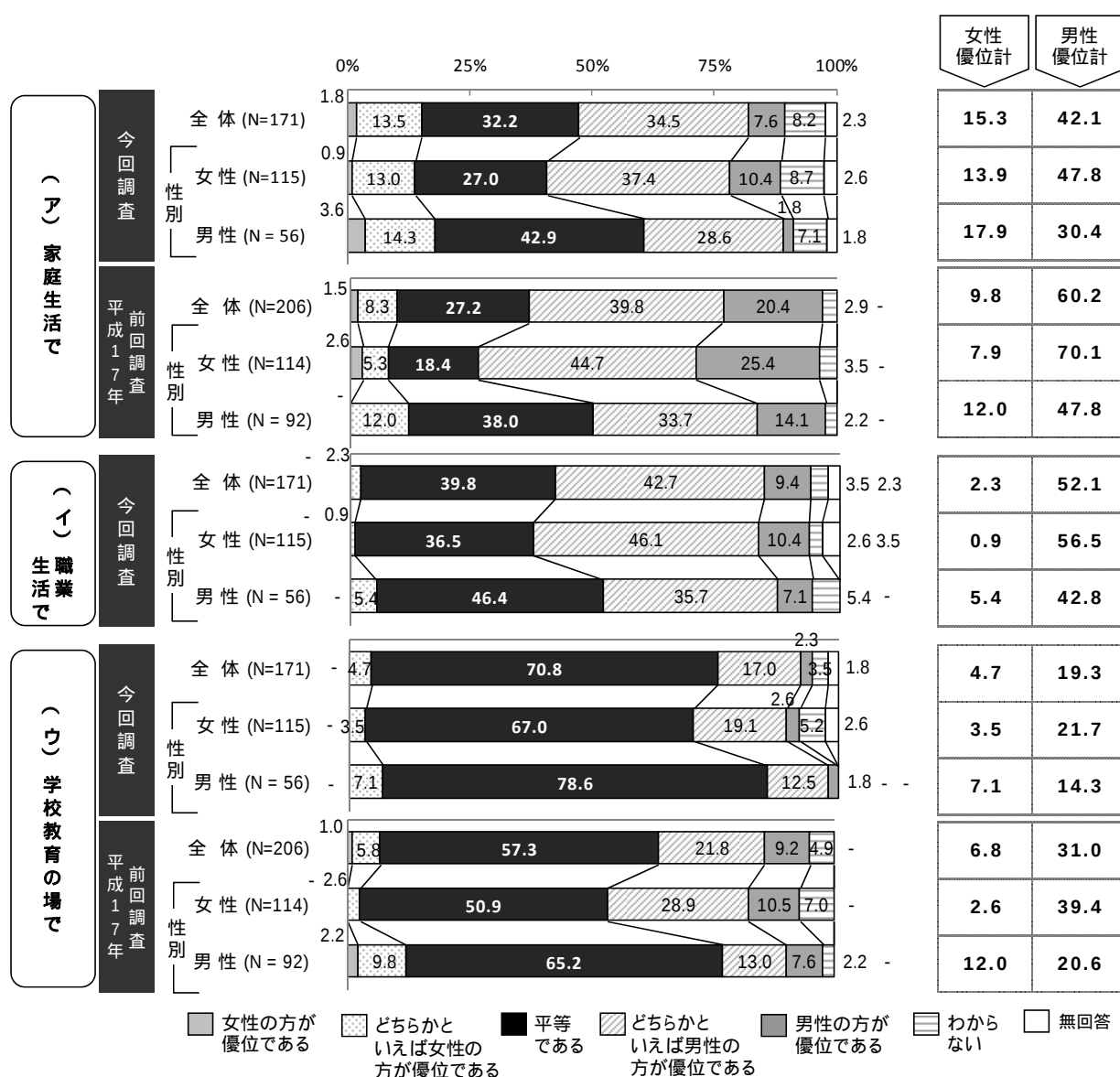
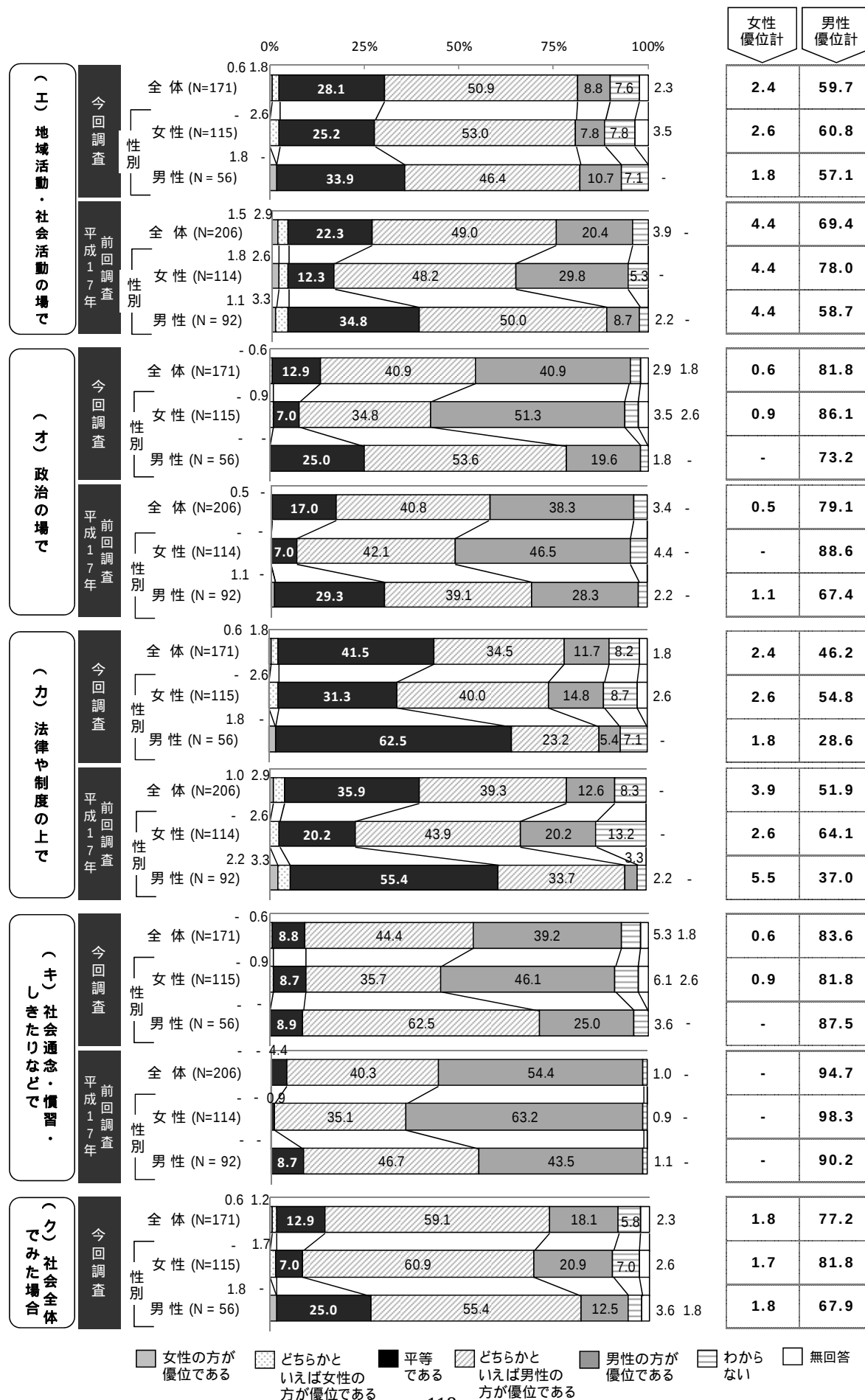


図 1 - 2 (2) 男女の地位の平等感 [全体、性別] (前回調査比較)



社会における8種類の分野において、男女の地位の平等感についてたずねた。

全体でみると「(オ)政治の場で」「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」「(ク)社会全体でみた場合」において、「男性の方が優位である」と「どちらかといえば男性の方が優位である」を合わせた『男性優位』の回答が7割を上回り、男性優位の傾向が強く認識されている分野となっている。また、「(イ)職業生活で」「(エ)地域活動・社会活動の場で」でも『男性優位』が5割以上、「(ア)家庭生活で」でも4割以上と「平等である」を上回っている。

一方、「(ウ)学校教育の場で」においては「平等である」が70.8%とすべての分野の中で最も高い。次いで「(カ)法律や制度の上で」(41.5%)であるが、『男性優位』(46.2%)の割合を上回ってはいない。

性別にみると、すべての分野で「平等である」の割合が女性よりも男性で高く、「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」を除く分野で、女性は『男性優位』の割合が男性よりも高いという傾向がみられる。特に「(カ)法律や制度の上で」は男性の「平等である」は62.5%であるのに対し、女性は31.3%、『男性優位』は女性54.8%であるのに対し、男性28.6%と男女差が大きい。「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」では、男女とも『男性優位』が8割以上と不平等感を感じている分野であるが、そのうち女性は、より優位性が強い「男性の方が優位である」が46.1%と男性(25.0%)を21.1ポイント上回り、女性の方に強い不平等感がみられる。

前回調査と比較すると、「(ア)家庭生活で」「(ウ)学校教育の場で」「(エ)地域活動・社会活動の場で」「(カ)法律や制度の上で」「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」などにおいては男女とも『男性優位』が低くなり、「平等である」が高くなるなど、平等感が前回よりも感じられているようである。しかし、「(オ)政治の場で」では男性で『男性優位』が高くなっている。

属性別特徴

年代別にみると、「(ア)家庭生活で」「(エ)地域活動・社会活動の場で」「(カ)法律や制度の上で」「(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで」「(ク)社会全体でみた場合」では男女とも年齢が高い層で『男性優位』の割合が高くなる傾向がある。「(イ)職業生活で」と「(オ)政治の場で」では女性の20歳代と50歳以上で『男性優位』の割合が高い。「(ウ)学校教育の場で」では女性の20歳代で「平等である」が55.0%と他の年代に比べて低くなっている。

表1 - 2 (1) 男女の地位の平等感 [全体、年代別]

(%)

		標 本 数	(ア)家庭生活で								(イ)職業生活で										
			る 女 性 の 方 が 優 位 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 女 性	平 等 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性	る 男 性 の 方 が 優 位 で あ る	わ か ら な い	無 回 答	女 性 優 位 計	男 性 優 位 計	る 女 性 の 方 が 優 位 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 女 性	平 等 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性	る 男 性 の 方 が 優 位 で あ る	わ か ら な い
全 体		171 100.0	3 1.8	23 13.5	55 32.2	59 34.5	13 7.6	14 8.2	4 2.3	26 15.3	72 42.1	-	4 2.3	68 39.8	73 42.7	16 9.4	6 3.5	4 2.3	4 2.3	89 52.1	
年 代 別	女性:20歳代	20	-	20.0	25.0	30.0	-	25.0	-	20.0	30.0	-	5.0	20.0	55.0	10.0	10.0	-	5.0	65.0	
	女性:30歳代	25	-	20.0	44.0	32.0	-	-	4.0	20.0	32.0	-	-	48.0	36.0	12.0	-	4.0	-	48.0	
	女性:40歳代	32	3.1	12.5	21.9	31.3	15.6	12.5	3.1	15.6	46.9	-	-	46.9	34.4	12.5	3.1	3.1	-	46.9	
	女性:50歳以上	37	-	5.4	18.9	51.4	18.9	2.7	2.7	5.4	70.3	-	-	29.7	59.5	5.4	-	5.4	-	64.9	
	男性:20歳代	15	-	20.0	53.3	6.7	6.7	6.7	6.7	20.0	13.4	-	20.0	33.3	26.7	13.3	6.7	-	20.0	40.0	
	男性:30歳代	12	16.7	-	41.7	25.0	-	16.7	-	16.7	25.0	-	-	41.7	33.3	8.3	16.7	-	-	41.6	
	男性:40歳代	16	-	18.8	50.0	31.3	-	-	-	18.8	31.3	-	-	56.3	43.8	-	-	-	-	43.8	
	男性:50歳以上	12	-	16.7	16.7	58.3	-	8.3	-	16.7	58.3	-	-	50.0	41.7	8.3	-	-	-	50.0	
	無回答	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	
			標 本 数	(ウ)学校教育の場で								(エ)地域活動・社会活動の場で									
る 女 性 の 方 が 優 位 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 女 性		平 等 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性	る 男 性 の 方 が 優 位 で あ る	わ か ら な い	無 回 答	女 性 優 位 計	男 性 優 位 計	る 女 性 の 方 が 優 位 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 女 性	平 等 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性	る 男 性 の 方 が 優 位 で あ る	わ か ら な い	無 回 答	女 性 優 位 計
全 体		171 100.0	-	8 4.7	121 70.8	29 17.0	4 2.3	6 3.5	3 1.8	8 4.7	33 19.3	1 0.6	3 1.8	48 28.1	87 50.9	15 8.8	13 7.6	4 2.3	4 2.4	102 59.7	
年 代 別	女性:20歳代	20	-	10.0	55.0	25.0	-	10.0	-	10.0	25.0	-	5.0	40.0	40.0	-	10.0	5.0	5.0	40.0	
	女性:30歳代	25	-	4.0	76.0	4.0	4.0	8.0	4.0	4.0	8.0	-	4.0	32.0	44.0	8.0	8.0	4.0	4.0	52.0	
	女性:40歳代	32	-	3.1	65.6	18.8	6.3	3.1	3.1	3.1	25.1	-	3.1	34.4	50.0	3.1	6.3	3.1	3.1	53.1	
	女性:50歳以上	37	-	-	70.3	24.3	-	2.7	2.7	-	24.3	-	-	5.4	70.3	13.5	8.1	2.7	-	83.8	
	男性:20歳代	15	-	-	80.0	20.0	-	-	-	-	20.0	6.7	-	33.3	33.3	13.3	13.3	-	6.7	46.6	
	男性:30歳代	12	-	25.0	66.7	8.3	-	-	-	25.0	8.3	-	-	33.3	33.3	16.7	16.7	-	-	50.0	
	男性:40歳代	16	-	-	93.8	6.3	-	-	-	-	6.3	-	-	37.5	56.3	6.3	-	-	-	62.6	
	男性:50歳以上	12	-	8.3	66.7	16.7	8.3	-	-	8.3	25.0	-	-	25.0	66.7	8.3	-	-	-	75.0	
	無回答	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	
			標 本 数	(オ)政治の場で								(カ)法律や制度の上で									
る 女 性 の 方 が 優 位 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 女 性		平 等 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性	る 男 性 の 方 が 優 位 で あ る	わ か ら な い	無 回 答	女 性 優 位 計	男 性 優 位 計	る 女 性 の 方 が 優 位 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 女 性	平 等 で あ る	性 の 方 が 優 位 で あ る	ど ち ら か と い え ば 男 性	る 男 性 の 方 が 優 位 で あ る	わ か ら な い	無 回 答	女 性 優 位 計
全 体		171 100.0	-	1 0.6	22 12.9	70 40.9	70 40.9	5 2.9	3 1.8	1 0.6	140 81.8	1 0.6	3 1.8	71 41.5	59 34.5	20 11.7	14 8.2	3 1.8	4 2.4	79 46.2	
年 代 別	女性:20歳代	20	-	5.0	-	35.0	55.0	5.0	-	5.0	90.0	-	10.0	40.0	35.0	10.0	5.0	-	10.0	45.0	
	女性:30歳代	25	-	-	12.0	32.0	52.0	-	4.0	-	84.0	-	-	44.0	32.0	16.0	4.0	4.0	-	48.0	
	女性:40歳代	32	-	-	12.5	34.4	43.8	6.3	3.1	-	78.2	-	3.1	31.3	34.4	12.5	15.6	3.1	3.1	46.9	
	女性:50歳以上	37	-	-	2.7	37.8	54.1	2.7	2.7	-	91.9	-	-	18.9	51.4	18.9	8.1	2.7	-	70.3	
	男性:20歳代	15	-	-	20.0	40.0	40.0	-	-	-	80.0	6.7	-	53.3	20.0	6.7	13.3	-	6.7	26.7	
	男性:30歳代	12	-	-	33.3	33.3	25.0	8.3	-	-	58.3	-	-	66.7	16.7	8.3	8.3	-	-	25.0	
	男性:40歳代	16	-	-	25.0	75.0	-	-	-	-	75.0	-	-	62.5	31.3	-	6.3	-	-	31.3	
	男性:50歳以上	12	-	-	16.7	66.7	16.7	-	-	-	83.4	-	-	66.7	25.0	8.3	-	-	-	33.3	
	無回答	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	

表1 - 2 (2) 男女の地位の平等感 [全体、年代別]

(%)

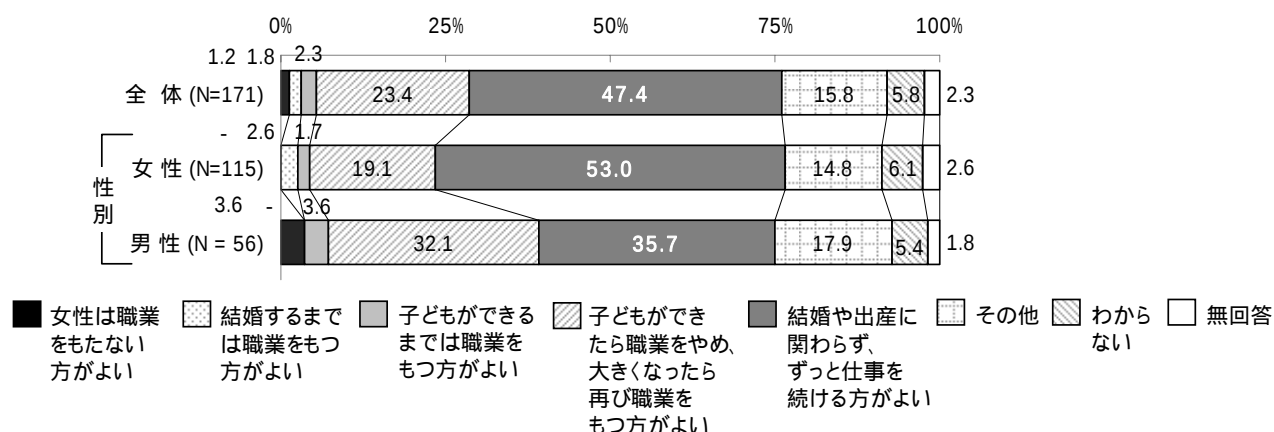
		標 本 数	(キ)社会通念・慣習・しきたりなどで								(ク)社会全体でみた場合									
			る 女 性 の 方 が 優 位 で あ る	性 の ど ち ら か と い え ば 女 性	平 等 で あ る	性 の ど ち ら か と い え ば 男 性	る 男 性 の 方 が 優 位 で あ る	わ か ら な い	無 回 答	女 性 優 位 計	男 性 優 位 計	る 女 性 の 方 が 優 位 で あ る	性 の ど ち ら か と い え ば 女 性	平 等 で あ る	性 の ど ち ら か と い え ば 男 性	る 男 性 の 方 が 優 位 で あ る	わ か ら な い	無 回 答	女 性 優 位 計	男 性 優 位 計
全 体		171 100.0	- -	1 0.6	15 8.8	76 44.4	67 39.2	9 5.3	3 1.8	1 0.6	143 83.6	1 0.6	2 1.2	22 12.9	101 59.1	31 18.1	10 5.8	4 2.3	3 1.8	132 77.2
年 代 別	女性:20歳代	20	-	5.0	20.0	30.0	25.0	20.0	-	5.0	55.0	-	10.0	5.0	55.0	15.0	15.0	-	10.0	70.0
	女性:30歳代	25	-	-	12.0	48.0	36.0	-	4.0	-	84.0	-	-	12.0	60.0	16.0	8.0	4.0	-	76.0
	女性:40歳代	32	-	-	9.4	31.3	50.0	6.3	3.1	-	81.3	-	-	12.5	65.6	15.6	3.1	3.1	-	81.2
	女性:50歳以上	37	-	-	-	35.1	59.5	2.7	2.7	-	94.6	-	-	-	59.5	32.4	5.4	2.7	-	91.9
	男性:20歳代	15	-	-	20.0	40.0	33.3	6.7	-	-	73.3	6.7	-	26.7	40.0	20.0	6.7	-	6.7	60.0
	男性:30歳代	12	-	-	16.7	58.3	25.0	-	-	-	83.3	-	-	41.7	33.3	16.7	8.3	-	-	50.0
	男性:40歳代	16	-	-	-	68.8	25.0	6.3	-	-	93.8	-	-	12.5	81.3	-	-	6.3	-	81.3
	男性:50歳以上	12	-	-	-	83.3	16.7	-	-	-	100.0	-	-	25.0	58.3	16.7	-	-	-	75.0
無回答		2	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0

3. 女性が職業をもつことについて

問3. 一般的に「女性が職業をもつこと」について、あなたはどのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○印は1つ)

- 女性の職業の持ち方について継続派が約半数を占める。
- 男性は継続派(35.7%)と中断・再就職派(32.1%)が拮抗。女性は継続派が5割以上。

図1-3 女性が職業をもつことについて[全体、性別]



女性が職業をもつことについてたずねたところ、「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」という継続派が47.4%と約半数を占めている。次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という中断・再就職派が23.4%となっている。「結婚するまでは職業をもつ方がよい」「子どもができるまでは職業をもつ方がよい」といった中断派はわずかである。

性別にみると、女性は「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が53.0%と5割を超え、男性(35.7%)よりも17.3ポイント高くなっている。一方、男性は「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が32.1%と女性(19.1%)よりも13ポイント高く、「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」(35.7%)の割合をやや下回る程度となっている。

属性別特徴

年代別にみると、「結婚や出産に関わらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が女性では年齢が上がるほどに高くなり、50歳以上では78.4%と約4分の3を占めている。一方、男性の50歳以上では25.0%と低く、男性では30歳代(50.0%)と40歳代(43.8%)が4割から5割と高い。「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」は男性の50歳以上で41.7%と最も高く、女性では20歳代で30.0%と高く、職業継続派を上回っている。

表1 - 3 女性が職業をもつことについて [全体、年代別]

		(%)							
		標 本 数	が女性 いは 職業 をも たない 方	結 婚 が よ い ま で は 職 業 を も	子 ど も が つ か る ま で は 職 業	子 ど も が つ か る ま で は 職 業	子 ど も が つ か る ま で は 職 業	子 ど も が つ か る ま で は 職 業	子 ど も が つ か る ま で は 職 業
全 体		171 100.0	2 1.2	3 1.8	4 2.3	40 23.4	81 47.4	27 15.8	10 5.8
年 代 別	女性:20歳代	20	-	10.0	-	30.0	25.0	30.0	5.0
	女性:30歳代	25	-	-	4.0	24.0	44.0	16.0	4.0
	女性:40歳代	32	-	3.1	3.1	25.0	46.9	9.4	9.4
	女性:50歳以上	37	-	-	-	5.4	78.4	10.8	5.4
	男性:20歳代	15	-	-	6.7	33.3	26.7	20.0	13.3
	男性:30歳代	12	-	-	-	16.7	50.0	33.3	-
	男性:40歳代	16	-	-	-	37.5	43.8	12.5	6.3
	男性:50歳以上	12	8.3	-	8.3	41.7	25.0	8.3	-
	無回答	2	50.0	-	-	-	50.0	-	-

第2章 家庭生活について

1. 家庭内における性別役割分担の状況

(1) 家庭内の役割分担

【現在、配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している方におたずねします】

問4. あなたのご家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、主に誰がしていますか。(ア)～(ケ)の各項目について、最もあてはまるものを選んでください。
(○印はそれぞれ1つ)

- 「家計を支える」は「妻と夫が同程度」、「家事」「家計の管理」は「妻と夫が同程度」から『妻中心』の傾向がある。

図2-1(1) 家庭内の役割分担[全体、性別]

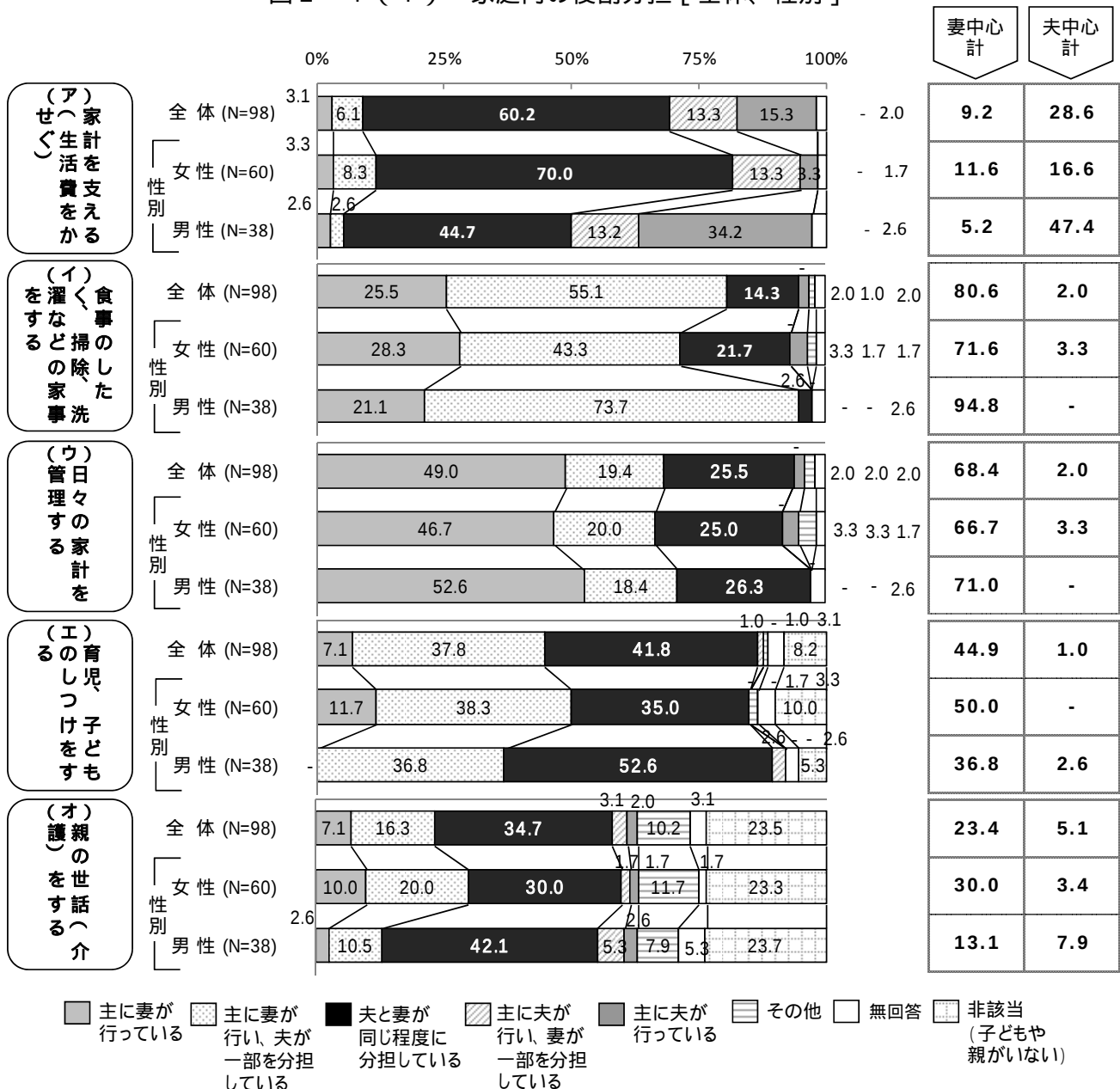
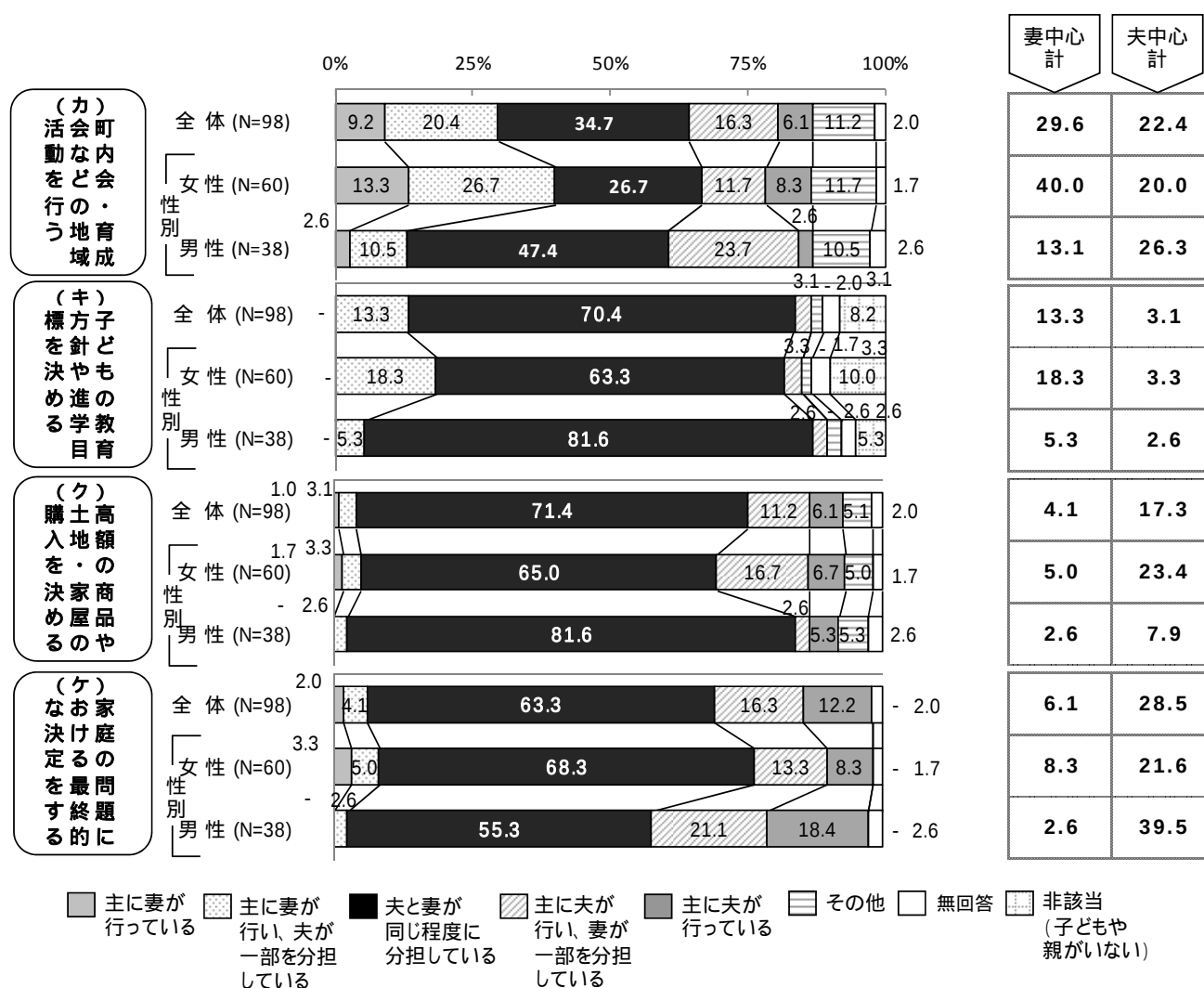


図2-1(2) 家庭内の役割分担〔全体、性別〕



配偶者・パートナーがいる人に9種類の家庭内の仕事を主に夫と妻のどちらがやっているかをたずねた。

「(ア)家計を支える(生活費をかせぐ)」や「(キ)子どもの教育方針や進学目標を決める」「(ク)高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「(ケ)家庭の問題における最終的な決定をする」などでは「夫と妻が同じ程度に分担している」が6割以上となっているが、「(ア)家計を支える(生活費をかせぐ)」「(ク)高額の商品や土地・家屋の購入を決める」「(ケ)家庭の問題における最終的な決定をする」においては「主に夫が行っている」と「主に夫が行い、妻が一部を分担している」を合わせた『夫中心』が2割弱から3割近くとなっている。

「(イ)食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「(ウ)日々の家計を管理する」などの日常的なことは、「主に妻が行っている」と「主に妻が行い、夫が一部を分担している」を合わせた『妻中心』が約7割から8割と高くなっている

「(エ)育児、子どものしつけをする」や「(オ)親の世話(介護)をする」などは「夫と妻が同じ程度に分担している」から『妻中心』の傾向があり、「(カ)町内会・育成会などの地域活動を行う」も同様の傾向もみられるが、『夫中心』(22.4%)の割合も2割程度ある。

性別にみると、「(ア)家計を支える(生活費をかせぐ)」は女性では「夫と妻が同じ程度に分担している」が70.0%であるが、男性は「夫と妻が同じ程度に分担している」(44.7%)と『夫中心』

(47.4%)が4割台で同程度になっている。「(イ)食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「(ウ)日々の家計を管理する」は男性の『妻中心』の割合が高く、「(エ)育児、子どものしつけをする」「(オ)親の世話(介護)をする」「(カ)町内会・育成会などの地域活動を行う」「(キ)子どもの教育方針や進学目標を決める」などでは、女性は妻が行っているという認識が高いが、男性は一部を分担、または同程度に分担しているという自己評価が高くなる傾向がうかがえる。

属性別特徴

女性の職業の持ち方別にみると、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」という中断・再就職派は「(ア)家計を支える(生活費をかせぐ)」においては『夫中心』、「(イ)食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」「(ウ)日々の家計を管理する」においては『妻中心』の割合が高くなっている。

表2-1(1) 家庭内の役割分担[全体、女性の職業の持ち方別]

		(ア)家計を支える(生活費をかせぐ)														(イ)食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする														(%)
		標 本 数	主 に 妻 が 行 っ て い る	一 部 を 分 担 し て い る、 夫 が	分 担 し て い る 程 度 に	主 に 夫 が 行 い て い る、 妻 が	主 に 夫 が 行 っ て い る	そ の 他	無 回 答	妻 中 心 計	夫 中 心 計	主 に 妻 が 行 っ て い る	一 部 を 分 担 し て い る、 夫 が	分 担 し て い る 程 度 に	主 に 夫 が 行 い て い る、 妻 が	主 に 夫 が 行 っ て い る	そ の 他	無 回 答	妻 中 心 計	夫 中 心 計										
全 体		98 100.0	3 3.1	6 6.1	59 60.2	13 13.3	15 15.3	-	2 2.0	9 9.2	28 28.6	25 25.5	54 55.1	14 14.3	-	2 2.0	1 1.0	2 2.0	79 80.6	2 2.0										
女性 の 職 業 の も ち 方 別	女性は職業をもたない方がよい	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-										
	結婚するまでは職業をもつ方がよい	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-										
	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-										
	子どもができたら職業をやめ、大き	23	8.7	-	30.4	30.4	30.4	-	-	8.7	60.8	34.8	56.5	4.3	-	4.3	-	-	91.3	4.3										
	なったら再び職業をもつ方がよい	51	2.0	9.8	72.5	5.9	5.9	-	3.9	11.8	11.8	27.5	49.0	17.6	-	-	2.0	3.9	76.5	-										
	結婚や出産に関わらず、ずっと	13	-	7.7	84.6	-	7.7	-	-	7.7	7.7	-	61.5	30.8	-	7.7	-	-	61.5	7.7										
仕事を続ける方がよい	6	-	-	33.3	16.7	50.0	-	-	-	66.7	16.7	83.3	-	-	-	-	-	100.0	-											
その他	1	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-										
			(ウ)日々の家計を管理する														(エ)育児、子どものしつけをする													
		標 本 数	主 に 妻 が 行 っ て い る	一 部 を 分 担 し て い る、 夫 が	分 担 し て い る 程 度 に	主 に 夫 が 行 い て い る、 妻 が	主 に 夫 が 行 っ て い る	そ の 他	無 回 答	妻 中 心 計	夫 中 心 計	主 に 妻 が 行 っ て い る	一 部 を 分 担 し て い る、 夫 が	分 担 し て い る 程 度 に	主 に 夫 が 行 い て い る、 妻 が	主 に 夫 が 行 っ て い る	そ の 他	が 非 該 当 な い (子 ど も や 親)	無 回 答	妻 中 心 計	夫 中 心 計									
全 体		98 100.0	48 49.0	19 19.4	25 25.5	-	2 2.0	2 2.0	2 2.0	67 68.4	2 2.0	7 7.1	37 37.8	41 41.8	1 1.0	-	1 1.0	8 8.2	3 3.1	44 44.9	1 1.0									
女性 の 職 業 の も ち 方 別	女性は職業をもたない方がよい	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-									
	結婚するまでは職業をもつ方がよい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									
	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	2	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-									
	子どもができたら職業をやめ、大き	23	69.6	17.4	13.0	-	-	-	-	87.0	-	-	43.5	47.8	-	-	-	8.7	-	43.5	-									
	なったら再び職業をもつ方がよい	51	41.2	25.5	25.5	-	2.0	2.0	3.9	66.7	2.0	11.8	41.2	27.5	2.0	-	2.0	9.8	5.9	53.0	2.0									
	結婚や出産に関わらず、ずっと	13	30.8	7.7	53.8	-	7.7	-	-	38.5	7.7	7.7	7.7	76.9	-	-	-	7.7	-	15.4	-									
仕事を続ける方がよい	6	66.7	-	16.7	-	-	16.7	-	66.7	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-										
その他	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	-									
無回答		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-									

表2-1(2) 家庭内の役割分担〔全体、女性の職業のもち方別〕

		(オ)親の世話(介護)をする												(カ)町内会・育成会などの地域活動を行う												(%)
		標 本 数																								
			主 に 妻 が 行 っ て い る	一 主 に 妻 が 行 い て、 夫 が	分 担 し て い る	夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に	一 主 に 夫 が 行 い て、 妻 が	主 に 夫 が 行 っ て い る	そ の 他	が 非 該 当 い ない (子 ど も や 親	無 回 答	妻 中 心 計	夫 中 心 計	主 に 妻 が 行 っ て い る	一 主 に 妻 が 行 い て、 夫 が	分 担 し て い る	夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に	一 主 に 夫 が 行 い て、 妻 が	主 に 夫 が 行 っ て い る	そ の 他	無 回 答	妻 中 心 計	夫 中 心 計			
全 体		98 100.0	7 7.1	16 16.3	34 34.7	3 3.1	2 2.0	10 10.2	23 23.5	3 3.1	23 23.4	5 5.1	9 9.2	20 20.4	34 34.7	16 16.3	6 6.1	11 11.2	2 2.0	29 29.6	22 22.4					
女 性 の 職 業 の も ち 方 別	女性は職業をもたない方がよい	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	50.0					
	結婚するまでは職業をもつ方がよい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	50.0					
	子どもができたら職業をやめ、大き なったら再び職業をもつ方がよい	23	8.7	13.0	30.4	8.7	4.3	17.4	17.4	-	21.7	13.0	21.7	8.7	39.1	17.4	-	13.0	-	30.4	17.4					
	結婚や出産に関わらず、ずっと 仕事を続ける方がよい	51	5.9	23.5	31.4	-	2.0	9.8	21.6	5.9	29.4	2.0	7.8	29.4	25.5	13.7	7.8	11.8	3.9	37.2	21.5					
	その他 わからない 無回答	13 6 1	15.4 - -	- 16.7 -	46.2 33.3 100.0	7.7 - -	- - -	- 16.7 -	30.8 33.3 -	- - -	15.4 16.7 -	7.7 - -	- - -	7.7 16.7 100.0	46.2 83.3 -	23.1 - -	15.4 - -	7.7 - -	- - -	7.7 16.7 100.0	38.5 - -					
		標 本 数	(キ)子どもの教育方針や進学目標を決める											(ク)高額の商品や土地・家屋の購入を決める												
			主 に 妻 が 行 っ て い る	一 主 に 妻 が 行 い て、 夫 が	分 担 し て い る	夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に	一 主 に 夫 が 行 い て、 妻 が	主 に 夫 が 行 っ て い る	そ の 他	が 非 該 当 い ない (子 ど も や 親	無 回 答	妻 中 心 計	夫 中 心 計	主 に 妻 が 行 っ て い る	一 主 に 妻 が 行 い て、 夫 が	分 担 し て い る	夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に	一 主 に 夫 が 行 い て、 妻 が	主 に 夫 が 行 っ て い る	そ の 他	無 回 答	妻 中 心 計	夫 中 心 計			
全 体		98 100.0	- -	13 13.3	69 70.4	3 3.1	- -	2 2.0	8 8.2	3 3.1	13 13.3	3 3.1	1 1.0	3 3.1	70 71.4	11 11.2	6 6.1	5 5.1	2 2.0	4 4.1	17 17.3					
女 性 の 職 業 の も ち 方 別	女性は職業をもたない方がよい	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0					
	結婚するまでは職業をもつ方がよい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-					
	子どもができたら職業をやめ、大き なったら再び職業をもつ方がよい	23	-	4.3	82.6	4.3	-	-	8.7	-	4.3	4.3	-	-	73.9	13.0	4.3	8.7	-	-	17.3					
	結婚や出産に関わらず、ずっと 仕事を続ける方がよい	51	-	19.6	58.8	2.0	-	3.9	9.8	5.9	19.6	2.0	-	3.9	66.7	13.7	5.9	5.9	3.9	3.9	19.6					
	その他 わからない 無回答	13 6 1	- - -	15.4 - -	69.2 100.0 100.0	7.7 - -	- - -	- - -	7.7 - -	- - -	15.4 - -	7.7 - -	7.7 - -	7.7 - -	76.9 83.3 100.0	- - -	7.7 16.7 -	- - -	- - -	15.4 - -	7.7 16.7 -					
		標 本 数	(ケ)家庭の問題における最終的な決定をする																							
			主 に 妻 が 行 っ て い る	一 主 に 妻 が 行 い て、 夫 が	分 担 し て い る	夫 と 妻 が 同 じ 程 度 に	一 主 に 夫 が 行 い て、 妻 が	主 に 夫 が 行 っ て い る	そ の 他	無 回 答	妻 中 心 計	夫 中 心 計														
全 体		98 100.0	2 2.0	4 4.1	62 63.3	16 16.3	12 12.2	- -	2 2.0	6 6.1	28 28.5															
女 性 の 職 業 の も ち 方 別	女性は職業をもたない方がよい	2	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	結婚するまでは職業をもつ方がよい	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	子どもができるまでは職業をもつ方がよい	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	子どもができたら職業をやめ、大き なったら再び職業をもつ方がよい	23	4.3	-	52.2	26.1	17.4	-	-	4.3	43.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	結婚や出産に関わらず、ずっと 仕事を続ける方がよい	51	-	5.9	62.7	13.7	13.7	-	3.9	5.9	27.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
	その他 わからない 無回答	13 6 1	7.7 - -	7.7 - -	76.9 66.7 100.0	7.7 16.7 -	- 16.7 -	- - -	- - -	- - -	15.4 - -	7.7 33.4 -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -	- - -					

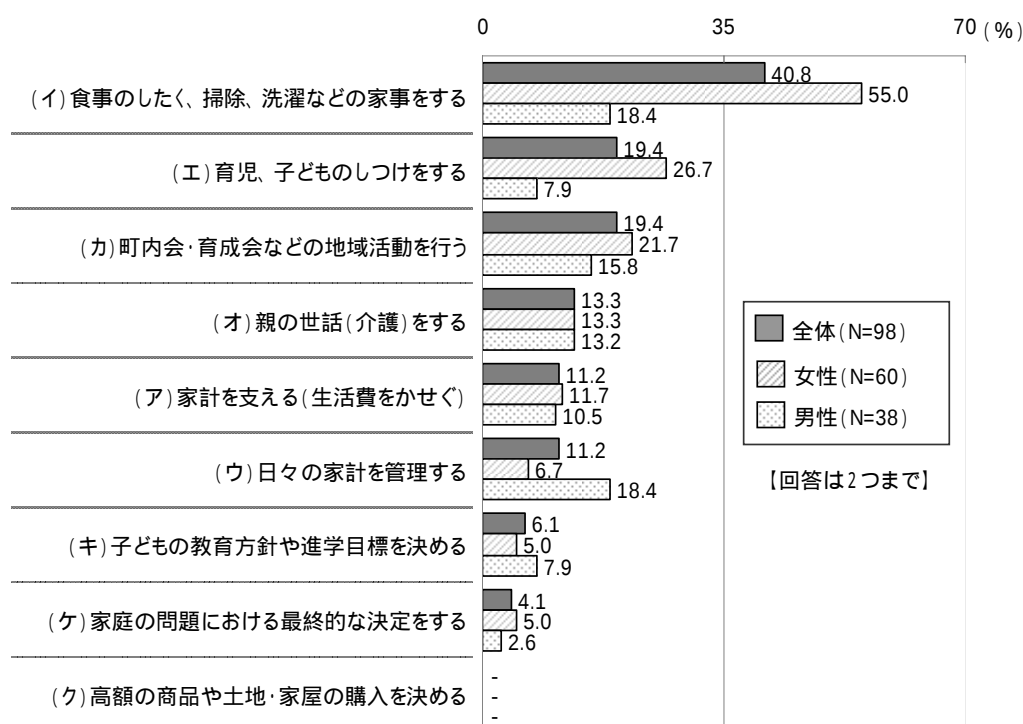
(2) 配偶者にもっとしてもらいたいこと

【現在、配偶者・パートナー(事実婚含む)と同居している方におたずねします】

問 4 .また、あなたが、配偶者の方にもっとしてほしいことはどれですか。問 4 の(ア)～(ケ)のうち、主なものを2 つまで選び、下の枠の中にカタカナで記入してください。

● 女性は日常的な家事、育児・しつけ、地域活動に夫側の参画を求めている。

図 2 - 2 配偶者にもっとしてもらいたいこと [全体、性別]



先述の 9 種類の家庭内の仕事について、配偶者にもっとしてもらいたいものとして 2 つまで選んでもらった。

男女差がみられるのは「(イ) 食事のしたく、掃除、洗濯などの家事をする」(女性 55.0%、男性 18.4%)では女性の方が 36.6 ポイント高く、「(エ) 育児、子どものしつけをする」(同 26.7%、7.9%)では 18.8 ポイント、また「(カ) 町内会・育成会などの地域活動を行う」(同 21.7%、15.8%)でも 5.9 ポイント女性の方が高くなっており、日常的な家事、育児・しつけ、地域活動などについて夫の参画を妻が求めていることがわかる。一方、男性は「(ウ) 日々の家計を管理する」(同 6.7%、18.4%)で女性より 11.7 ポイント高い。

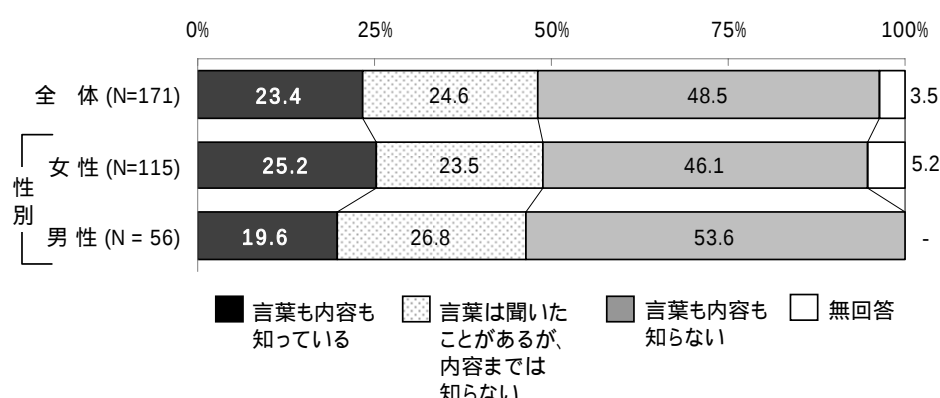
第3章 職業について

1. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の認知度

問5. あなたは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」について知っていますか。
（○印は1つ）

- 「言葉も内容も知っている」は男性の20歳代で5割近くと最も高い。

図3-1 ワーク・ライフ・バランスの認知度 [全体、性別]



「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の認知について、「言葉も内容も知っている」は23.4%、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は24.6%と言葉の認知度は48.0%と約半数となっている。一方、「言葉も内容も知らない」は48.5%となっている。

性別にみると、言葉の認知度は女性48.7%、男性46.4%とあまり差はみられないが、女性は「言葉も内容も知っている」が25.2%と男性（19.6%）より5.6ポイント高い。

属性別特徴

年代別にみると、「言葉や内容も知っている」は男性の20歳代で46.7%と最も高い。

表3-1 ワーク・ライフ・バランスの認知度 [全体、年代別]

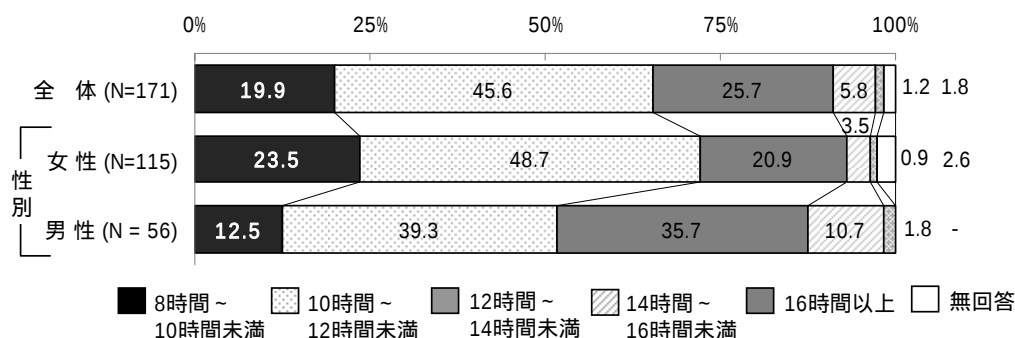
		標本数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない	言葉も内容も知らない	無回答
全体		171	40	42	83	6
		100.0	23.4	24.6	48.5	3.5
年代別	女性:20歳代	20	25.0	35.0	40.0	-
	女性:30歳代	25	24.0	12.0	60.0	4.0
	女性:40歳代	32	25.0	18.8	43.8	12.5
	女性:50歳以上	37	27.0	29.7	40.5	2.7
	男性:20歳代	15	46.7	-	53.3	-
	男性:30歳代	12	-	25.0	75.0	-
	男性:40歳代	16	25.0	25.0	50.0	-
	男性:50歳以上	12	-	66.7	33.3	-
	無回答	2	-	-	100.0	-

2. 一日の勤務時間（通勤時間含む）

問6 .あなたのふだんの一日の勤務時間と通勤時間を合計すると、何時間ぐらいになりますか。
今年度に入ってからのもので、残業時間も含めてお答えください。

●一日の勤務時間は『12 時間以上』が男性が5 割弱を占め、女性の約2 倍。

図3 - 2 一日の勤務時間（通勤時間含む）[全体、性別]



通勤時間を含む一日の勤務時間をたずねたところ、「10 時間～12 時間未満」が45.6%と最も高い。次いで「12 時間～14 時間未満」が25.7%、「8 時間～10 時間未満」が19.9%となっている。

性別にみると、女性は「10 時間～12 時間未満」が48.7%と約半数を占め、男性は「10 時間～12 時間未満」(39.3%) が約4 割で、次いで「12 時間～14 時間未満」(35.7%) が3 割台で続いている。『12 時間以上』の長時間勤務は女性が25.3%であるのに対し、男性は48.2%と約2 倍となっている。

属性別特徴

年代別にみると、男性はいずれの年代も『12 時間以上』が4 割以上を占めているが、特に20 歳代と30 歳代では「14～16 時間未満」が2 割台と高く、通勤時間を含めた勤務時間が長い。

表3 - 2 一日の勤務時間（通勤時間含む）[全体、年代別]

		標本数	1 8 0 時 間 未 満	1 1 2 0 時 間 未 満	1 1 4 2 時 間 未 満	1 1 6 4 時 間 未 満	1 6 時 間 以上	無 回 答
全 体		171	34	78	44	10	2	3
		100.0	19.9	45.6	25.7	5.8	1.2	1.8
年 代 別	女性:20歳代	20	25.0	35.0	30.0	5.0	5.0	-
	女性:30歳代	25	16.0	60.0	16.0	4.0	-	4.0
	女性:40歳代	32	21.9	43.8	25.0	3.1	-	6.3
	女性:50歳以上	37	29.7	51.4	16.2	2.7	-	-
	男性:20歳代	15	13.3	40.0	26.7	20.0	-	-
	男性:30歳代	12	16.7	25.0	33.3	25.0	-	-
	男性:40歳代	16	12.5	37.5	43.8	-	6.3	-
	男性:50歳以上	12	8.3	50.0	41.7	-	-	-
	無回答	2	-	100.0	-	-	-	-

3. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度

問7. ふだんの生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度についておたずねします。

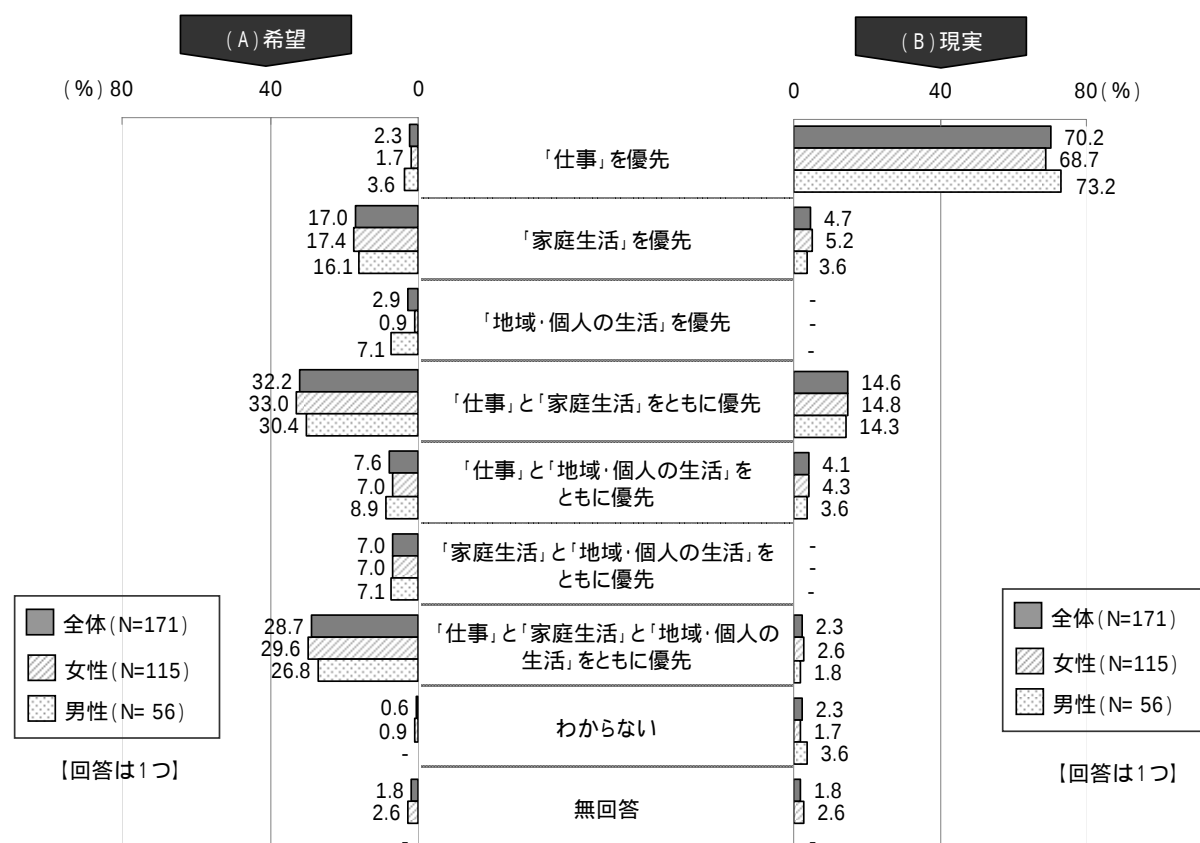
(A) あなたの希望に最も近いもの

(B) あなたの現実(現状)に最も近いもの

について、それぞれあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)

- 希望は「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」、現実「「仕事」を優先」。

図3-3 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度[全体、性別]



「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度を希望と現実に分けてたずねた。

希望では「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」(32.2%)と「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」(28.7%)が3割前後で多く、その他「「家庭生活」を優先」が17.0%となっている。

現実となると「「仕事」を優先」が70.2%と最も高く、次いで「「仕事」と「家庭生活」をともに優先」14.6%である。希望で第2位にあげられた「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先」は実際の生活では2.3%とわずかで希望と現実との差は大きい。

性別による差はあまりみられない。

属性別特徴

年代別にみると、男女ともいずれの年代も現実では「仕事」を優先」の割合が高く、希望とは一致していない。しかし、男性の30歳代では「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が希望と同率の41.7%で、希望と現実が合致している人がある。

表3-3 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度〔全体、年代別〕

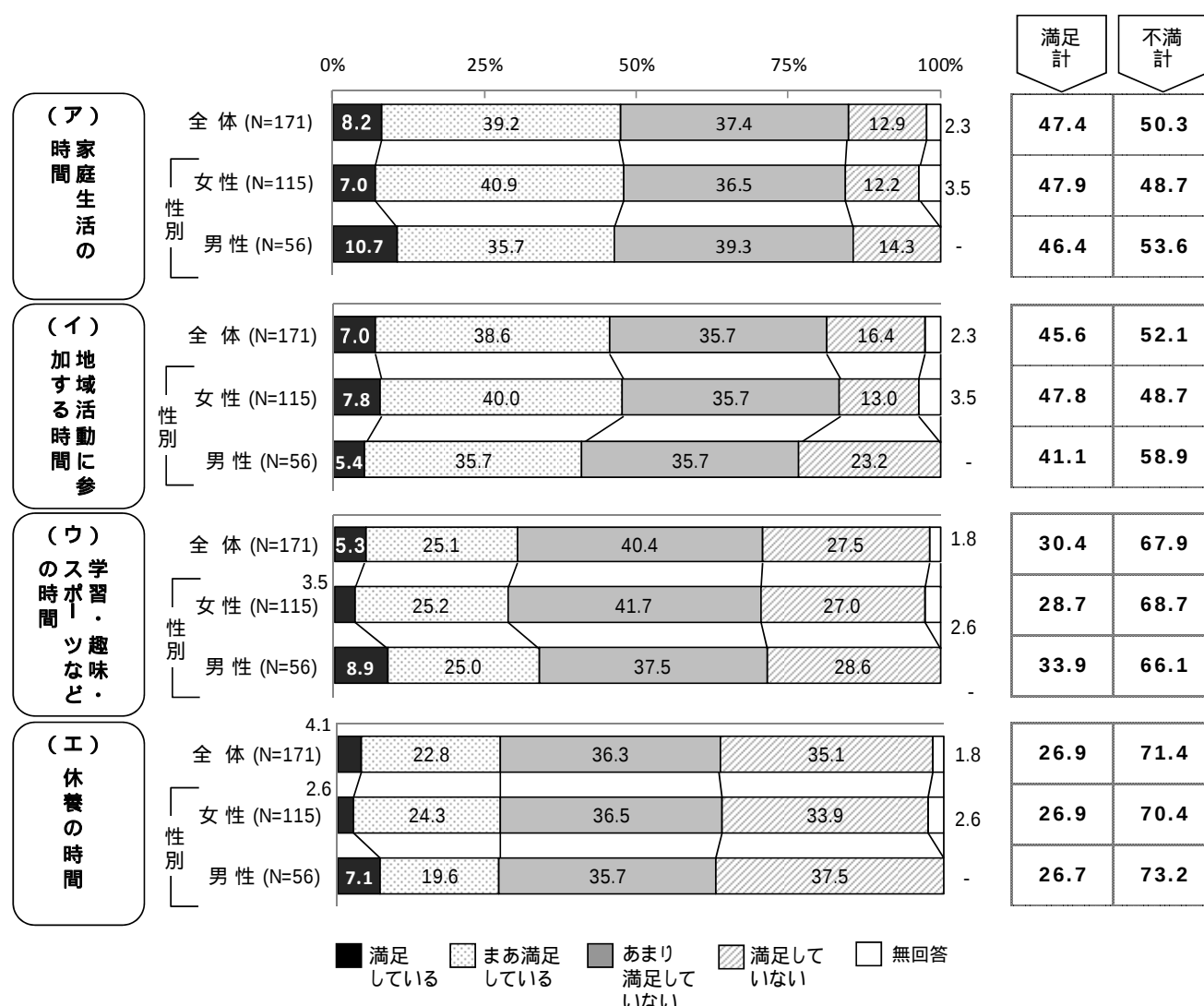
			(A)希望									(%)	
			標 本 数	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	先「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先	わからない	無回答
全 体				171 100.0	4 2.3	29 17.0	5 2.9	55 32.2	13 7.6	12 7.0	49 28.7	1 0.6	3 1.8
年代別	女性:20歳代	20	-	15.0	5.0	25.0	5.0	15.0	30.0	5.0	-	-	
	女性:30歳代	25	-	20.0	-	44.0	12.0	-	20.0	-	-	4.0	
	女性:40歳代	32	-	28.1	-	31.3	3.1	12.5	18.8	-	-	6.3	
	女性:50歳以上	37	5.4	8.1	-	32.4	8.1	2.7	43.2	-	-	-	
	男性:20歳代	15	-	-	-	33.3	33.3	6.7	26.7	-	-	-	
	男性:30歳代	12	-	16.7	16.7	41.7	-	8.3	16.7	-	-	-	
	男性:40歳代	16	12.5	31.3	-	25.0	-	6.3	25.0	-	-	-	
	男性:50歳以上	12	-	16.7	16.7	25.0	-	8.3	33.3	-	-	-	
無回答		2	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	
			標 本 数	(B)現実									
				「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	先「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」を優先	「仕事」と「地域・個人の生活」を優先	「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先	「地域・個人の生活」を優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を優先	わからない	無回答
全 体			171 100.0	120 70.2	8 4.7	- -	25 14.6	7 4.1	- -	4 2.3	4 2.3	3 1.8	
年代別	女性:20歳代	20	70.0	10.0	-	-	10.0	-	10.0	-	-	-	
	女性:30歳代	25	72.0	-	-	16.0	4.0	-	-	-	4.0	4.0	
	女性:40歳代	32	65.6	9.4	-	15.6	-	-	3.1	-	-	6.3	
	女性:50歳以上	37	67.6	2.7	-	21.6	5.4	-	-	-	2.7	-	
	男性:20歳代	15	73.3	-	-	6.7	13.3	-	-	-	6.7	-	
	男性:30歳代	12	41.7	8.3	-	41.7	-	-	-	-	8.3	-	
	男性:40歳代	16	87.5	6.3	-	6.3	-	-	-	-	-	-	
	男性:50歳以上	12	83.3	-	-	8.3	-	-	8.3	-	-	-	
無回答		2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

4. 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度

問8. あなたは、ふだんの生活の中で「家庭生活」、「地域活動」、「学習・趣味・スポーツなど」、「休養」の時間に満足していますか。次の（ア）～（エ）の項目ごとに、あなたの認識に最も近いものを選んでください。（○印は1つつつ）

- 家庭生活、地域活動、学習や趣味、休養の時間すべてにおいて『不満』が高い。
- 学習や趣味、休養の時間では男性の30・40歳代の『不満』が特に高い。

図3-4 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度 [全体、性別]



「(ア) 家庭生活」「(イ) 地域活動」「(ウ) 学習・趣味・スポーツなど」「(エ) 休養」に使う時間の満足度をたずねた。いずれも「満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足』の割合が「満足していない」と「あまり満足していない」を合わせた『不満』の割合を上回るものはなく、「(エ) 休養の時間」は『不満』が71.4%と最も高く、次いで「(ウ) 学習・趣味・スポーツなどの時間」が67.9%となっている。「(ア) 家庭生活の時間」と「(イ) 地域活動に参加する時間」は『満足』が4割台で学習・趣味・スポーツや休養に比べると高くなっている。

性別にみると「(ア)家庭生活の時間」は『満足』では男女差はあまりみられないが、強い満足感である「満足している」は男性、また強い不満感も男性にやや多い。「(イ)地域活動に参加する時間」は女性の『満足』は47.8%で『不満』(48.7%)と同程度であるが、男性は41.1%で『不満』(58.9%)の方が高い。「(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間」と「(エ)休養の時間」いずれも男女とも『不満』が7割前後と高く、「(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間」は女性、「(エ)休養の時間」は男性にやや多い。

属性別特徴

年代別にみると、「(ア)家庭生活の時間」では女性の20歳代の『満足』は75.0%と最も高いのに対し、同じ年代の男性では40.0%と低く、『不満』(60.0%)の方が高い。その他女性の50歳以上や男性の40歳代でも『不満』は6割を超えている。「(イ)地域活動に参加する時間」は男性のいずれの年代も『不満』の割合が5割を超えている。「(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間」では、女性はいずれの年代でも『不満』の割合が6割を超えており、男性は30歳代と40歳代で約75%と高い。「(エ)休養の時間」は男性の20歳代のみが『不満』の割合が53.3%と5割台で、その他の男女の各年代では6割を超えており、特に男性の30歳代と40歳代で8割を超えて高率となっている。

表3 - 4 家庭生活、地域・個人の生活等の時間の満足度〔全体、年代別〕

					(ア)家庭生活の時間								(イ)地域活動に参加する時間								(%)
			標 本 数	る満 足 して い	てま いあ る満 足し	しあ てま いり な満 い足	な満 い足 して い	無 回 答	満 足 計	不 満 計	る満 足 して い	てま いあ る満 足し	しあ てま いり な満 い足	な満 い足 して い	無 回 答	満 足 計	不 満 計				
全 体				171 100.0	14 8.2	67 39.2	64 37.4	22 12.9	4 2.3	81 47.4	86 50.3	12 7.0	66 38.6	61 35.7	28 16.4	4 2.3	78 45.6	89 52.1			
年 代 別	女性:20歳代	20	15.0	60.0	25.0	-	-	-	75.0	25.0	-	55.0	30.0	15.0	-	55.0	45.0				
	女性:30歳代	25	4.0	52.0	32.0	8.0	4.0	-	56.0	40.0	4.0	44.0	36.0	12.0	4.0	48.0	48.0				
	女性:40歳代	32	6.3	34.4	34.4	18.8	6.3	-	40.7	53.2	12.5	34.4	34.4	12.5	6.3	46.9	46.9				
	女性:50歳以上	37	5.4	29.7	45.9	16.2	2.7	-	35.1	62.1	10.8	35.1	37.8	13.5	2.7	45.9	51.3				
	男性:20歳代	15	13.3	26.7	46.7	13.3	-	-	40.0	60.0	13.3	33.3	26.7	26.7	-	46.6	53.4				
	男性:30歳代	12	25.0	33.3	33.3	8.3	-	-	58.3	41.6	8.3	33.3	16.7	41.7	-	41.6	58.4				
	男性:40歳代	16	-	37.5	37.5	25.0	-	-	37.5	62.5	-	31.3	43.8	25.0	-	31.3	68.8				
	男性:50歳以上	12	8.3	50.0	33.3	8.3	-	-	58.3	41.6	-	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0				
無回答		2	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0					
			標 本 数	(ウ)学習・趣味・スポーツなどの時間						(エ)休養の時間											
				る満 足 して い	てま いあ る満 足し	しあ てま いり な満 い足	な満 い足 して い	無 回 答	満 足 計	不 満 計	る満 足 して い	てま いあ る満 足し	しあ てま いり な満 い足	な満 い足 して い	無 回 答	満 足 計	不 満 計				
全 体			171 100.0	9 5.3	43 25.1	69 40.4	47 27.5	3 1.8	52 30.4	116 67.9	7 4.1	39 22.8	62 36.3	60 35.1	3 1.8	46 26.9	122 71.4				
年 代 別	女性:20歳代	20	-	35.0	35.0	30.0	-	-	35.0	65.0	-	35.0	40.0	25.0	-	35.0	65.0				
	女性:30歳代	25	4.0	28.0	40.0	24.0	4.0	-	32.0	64.0	4.0	28.0	36.0	28.0	4.0	32.0	64.0				
	女性:40歳代	32	3.1	25.0	34.4	31.3	6.3	-	28.1	65.7	3.1	18.8	28.1	43.8	6.3	21.9	71.9				
	女性:50歳以上	37	5.4	18.9	54.1	21.6	-	-	24.3	75.7	2.7	21.6	43.2	32.4	-	24.3	75.6				
	男性:20歳代	15	20.0	26.7	33.3	20.0	-	-	46.7	53.3	20.0	26.7	40.0	13.3	-	46.7	53.3				
	男性:30歳代	12	16.7	8.3	33.3	41.7	-	-	25.0	75.0	8.3	8.3	41.7	41.7	-	16.6	83.4				
	男性:40歳代	16	-	25.0	31.3	43.8	-	-	25.0	75.1	-	18.8	37.5	43.8	-	18.8	81.3				
	男性:50歳以上	12	-	41.7	50.0	8.3	-	-	41.7	58.3	-	25.0	16.7	58.3	-	25.0	75.0				
無回答		2	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0					

第4章 暴力などの人権侵害について

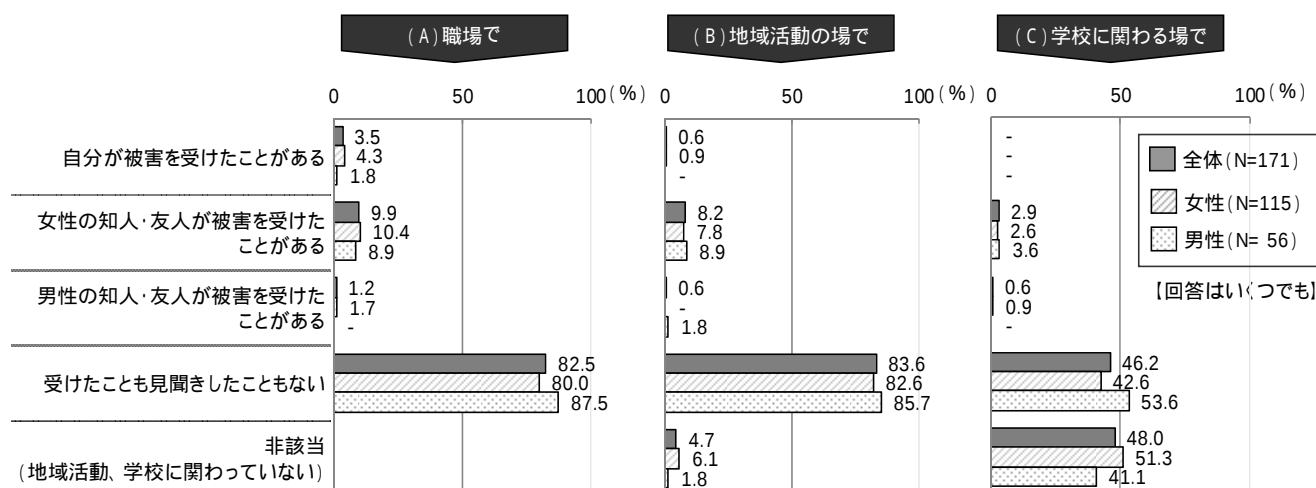
1. セクシュアル・ハラスメントについて

(1) セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き

問9. 最近3年間くらいの間に、(A)職場、(B)地域活動の場、(C)学校に関わる場で、付問1であげたようなセクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたりしたことがありますか。(○印はいくつでも)

●セクシュアル・ハラスメントの被害や見聞きは「職場で」が約15%と最も多い。

図4-1 セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き [全体、性別]



「(A) 職場で」「(B) 地域活動の場で」「(C) 学校に関わる場で」セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたり、見聞きしたりしたことがあるかどうかたずねた。

いずれの場でも「受けたことも見聞きしたこともない」が最も多いが、「自分が被害を受けたことがある」や見聞きしたことがある割合は「(A) 職場で」が14.6%と最も多く、「(B) 地域活動の場で」は9.4%、「(C) 学校に関わる場で」は3.5%である。

性別でみると、「自分が被害を受けたことがある」は「(C) 学校に関わる場で」は該当者はいないが、「(A) 職場で」「(B) 地域活動の場で」は女性の方が割合は高く、また、見聞きした場合も女性の知人・友人が被害にあったケースの割合が高い。

属性別特徴

年代別にみると、「(A) 職場で」の「自分が被害を受けたことがある」や「女性の知人・友人が被害を受けたことがある」は男女ともに年齢の低い層で割合が高い。「(B) 地域活動の場で」は女性の40歳代や50歳以上で「自分が被害を受けたことがある」や「女性の知人・友人が被害を受けたことがある」の割合が他の年代と比べて多い。

表 4 - 1 セクシュアル・ハラスメントの経験、見聞き [全体、年代別]

(%)

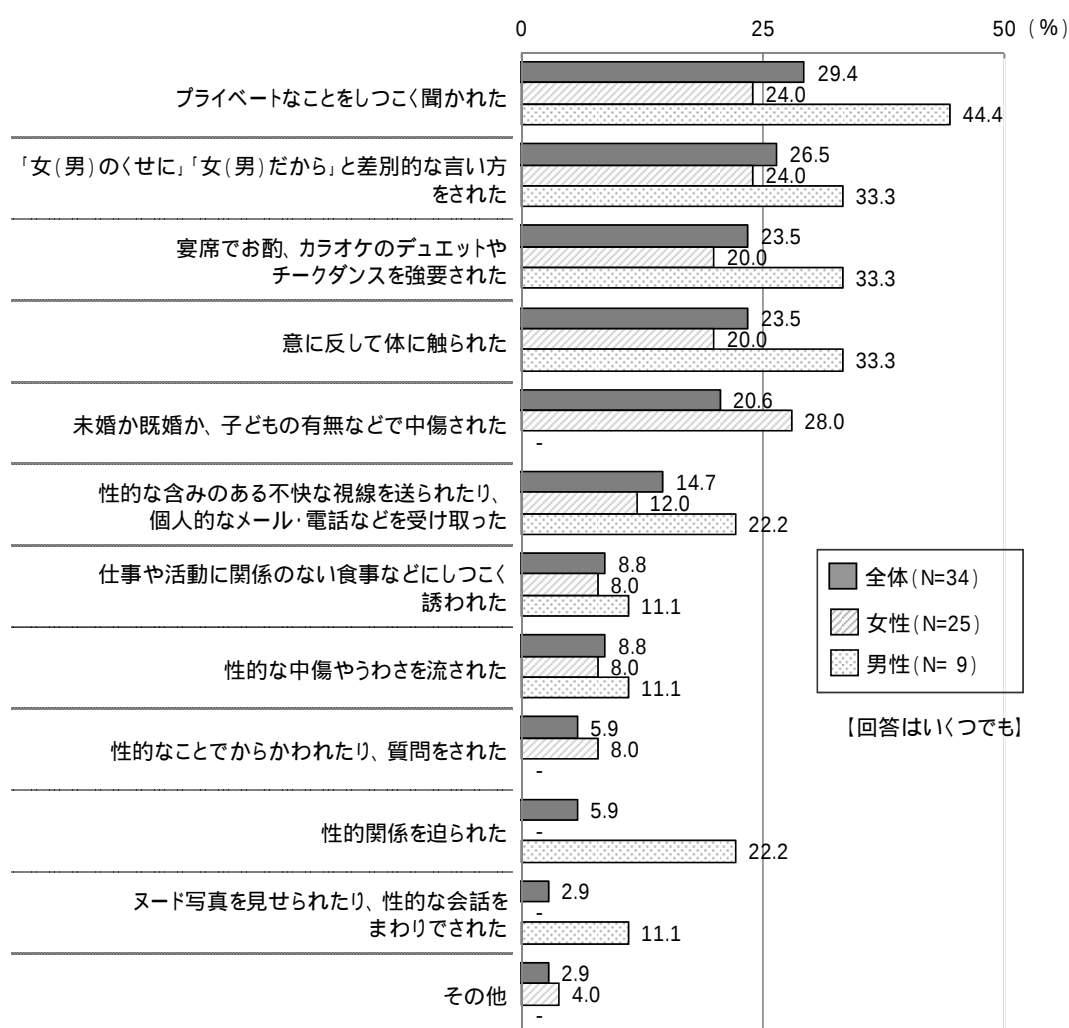
		標 本 数	(A)職場で					(B)地域活動の場で					(C)学校に関わる場で						
			ある 自分 が被 害を 受け たこ とが	女性 の知 人・ 友人 が被 害を 受け たこ とが	男性 の知 人・ 友人 が被 害を 受け たこ とが	受 け た こ と も 見 聞 き し た こ と も い な い	無 回 答	ある 自分 が被 害を 受け たこ とが	女性 の知 人・ 友人 が被 害を 受け たこ とが	男性 の知 人・ 友人 が被 害を 受け たこ とが	受 け た こ と も 見 聞 き し た こ と も い な い	非 該 当 （ 地 域 活 動 に 関 わ つ て い な い ）	無 回 答	ある 自分 が被 害を 受け たこ とが	女性 の知 人・ 友人 が被 害を 受け たこ とが	男性 の知 人・ 友人 が被 害を 受け たこ とが	受 け た こ と も 見 聞 き し た こ と も い な い （ 学 校 に 関 わ つ て い な い ）	非 該 当 （ 学 校 に 関 わ つ て い な い ）	無 回 答
全 体		171 100.0	6 3.5	17 9.9	2 1.2	141 82.5	6 3.5	1 0.6	14 8.2	1 0.6	143 83.6	8 4.7	4 2.3	- -	5 2.9	1 0.6	79 46.2	82 48.0	4 2.3
年 代 別	女性:20歳代	20	10.0	10.0	5.0	70.0	10.0	-	10.0	-	75.0	10.0	5.0	-	5.0	-	-	90.0	5.0
	女性:30歳代	25	-	20.0	4.0	72.0	4.0	-	4.0	-	80.0	12.0	4.0	-	-	-	16.0	84.0	-
	女性:40歳代	32	3.1	9.4	-	84.4	3.1	-	12.5	-	84.4	3.1	-	-	6.3	3.1	59.4	28.1	3.1
	女性:50歳以上	37	5.4	5.4	-	86.5	2.7	2.7	5.4	-	86.5	2.7	2.7	-	-	-	67.6	29.7	2.7
	男性:20歳代	15	6.7	20.0	-	66.7	6.7	-	26.7	-	66.7	-	6.7	-	6.7	-	-	86.7	6.7
	男性:30歳代	12	-	8.3	-	91.7	-	-	-	-	91.7	8.3	-	-	-	-	25.0	75.0	-
	男性:40歳代	16	-	-	-	100.0	-	-	-	6.3	93.8	-	-	-	-	-	93.8	6.3	-
	男性:50歳以上	12	-	8.3	-	91.7	-	-	8.3	-	91.7	-	-	-	8.3	-	91.7	-	-
無回答		2	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-

(2) セクシュアル・ハラスメントの内容

問9付問1.【問9(A)(B)(C)で1～3のいずれかに1つでも○がついた方に】
それはどういったものでしたか。(○印はいくつでも)

- 被害を受けた、見聞きしたセクシュアル・ハラスメントの内容は「プライベートなことをしつこく聞かれた」「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」などが上位。

図4-2 セクシュアル・ハラスメントの内容 [全体、性別]



「(A) 職場で」「(B) 地域活動の場で」「(C) 学校に関わる場で」セクシュアル・ハラスメントの被害を受けたり見聞きをした人にその内容についてたずねた。

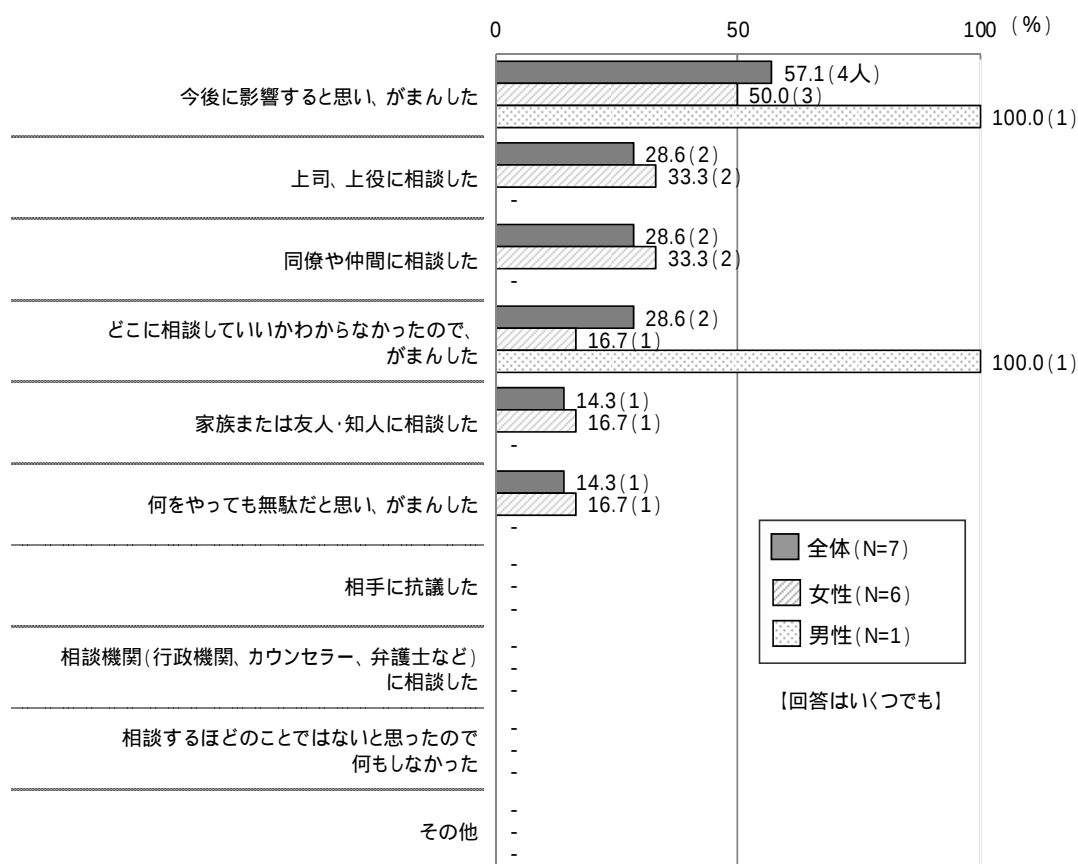
「プライベートなことをしつこく聞かれた」(29.4%)、「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」(26.5%)、「宴席でお酌、カラオケのデュエットやチークダンスを強要された」「意に反して体に触られた」(同率23.5%)、「未婚か既婚か、子どもの有無などで中傷された」(20.6%)などが上位にあがっている。

(3) セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応

問9 付問2 .【問9 (A)(B)(C)のいずれかで「1. 自分が被害を受けたことがある」と答えた方に】その時あなたはどのように対応しましたか。(○印はいくつでも)

●セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応は「今後に影響すると思い、がまんした」が約6割。

図4 - 3 セクシュアル・ハラスメントを受けたときの対応 [全体、性別]



「(A) 職場で」「(B) 地域活動の場で」「(C) 学校に関わる場で」セクシュアル・ハラスメントの被害を自分が受けたことがある人に、その時の対応についてたずねたところ、「今後に影響すると思い、がまんした」が 57.1% (4 人) と最も多く、次いで「上司、上役に相談した」「同僚や仲間に相談した」「どこに相談していいかわからなかったので、がまんした」同率 28.6% (2 人) となっている。

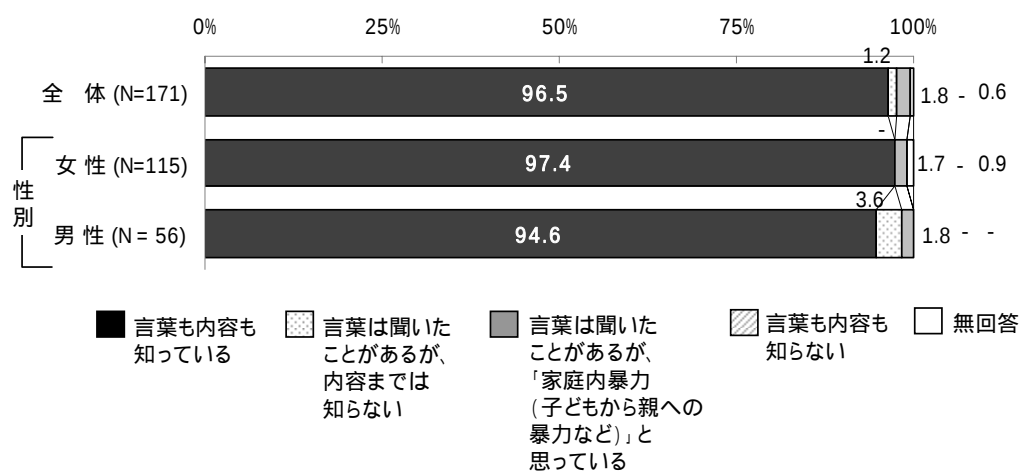
2. ドメスティック・バイオレンスについて

(1) ドメスティック・バイオレンスの認知

問10. あなたは、「ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者・パートナーからの暴力）」について知っていますか。（○印は1つ）

●ドメスティック・バイオレンスについて「言葉も内容も知っている」が9割を超える。

図4-4 ドメスティック・バイオレンスの認知〔全体、性別〕



ドメスティック・バイオレンスの認知について、「言葉も内容も知っている」が96.5%と最も多い。

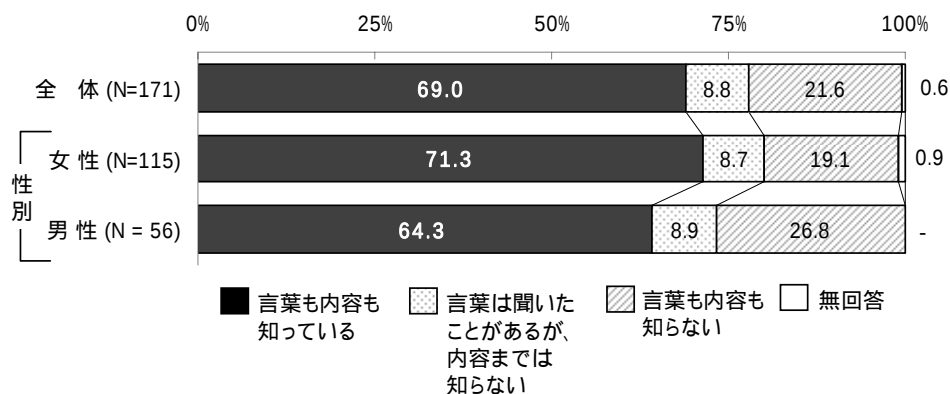
性別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性が97.4%、男性が94.6%とやや女性の方が多い。

(2)「デートDV」の認知

問 11 . 恋人関係にある者の間での暴力を、特に「デートDV」と言うことがありますが、このことについて知っていますか。(○印は1つ)

●デートDVについて「言葉も内容も知っている」は約7割と、DVに比べ約3割低い。

図 4 - 5 「デートDV」の認知 [全体、性別]



デートDVの認知について「言葉も内容も知っている」は69.0%とドメスティック・バイオレンスに比べ3割ほど低くなっている。「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は8.8%でデートDVという言葉の認知度は77.8%となっている。一方、「言葉も内容も知らない」は21.6%となっている。

性別にみると、「言葉も内容も知っている」は女性が71.3%、男性が64.3%と女性の方が7ポイント多い。

属性別特徴

年代別にみると、男性の30歳代で「言葉も内容も知らない」が50.0%と高いのが目立つ。

表 4 - 4 「デートDV」の認知 [全体、年代別]

		標本数	知言葉てもい内容も	はがこ言知、と葉ら内がはな容あ聞いた	知言葉ない内容も	無回答
全 体		171	118	15	37	1
		100.0	69.0	8.8	21.6	0.6
年 代 別	女性:20歳代	20	75.0	-	25.0	-
	女性:30歳代	25	60.0	12.0	28.0	-
	女性:40歳代	32	81.3	9.4	9.4	-
	女性:50歳以上	37	67.6	10.8	18.9	2.7
	男性:20歳代	15	86.7	-	13.3	-
	男性:30歳代	12	33.3	16.7	50.0	-
	男性:40歳代	16	50.0	12.5	37.5	-
	男性:50歳以上	12	83.3	8.3	8.3	-
	無回答	2	100.0	-	-	-

(3) ドメスティック・バイオレンスと思う内容

問 12. あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーとの間や恋人との間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。次の(ア)～(ス)の項目について、それぞれあてはまるものを選んでください。(○印は1つずつ)

- 「大声でどなる」「交友関係やメールを監視する」などの精神的暴力で場合によっては暴力にあたると認識する傾向がある。

図4-6(1) ドメスティック・バイオレンスと思う内容[全体、性別]

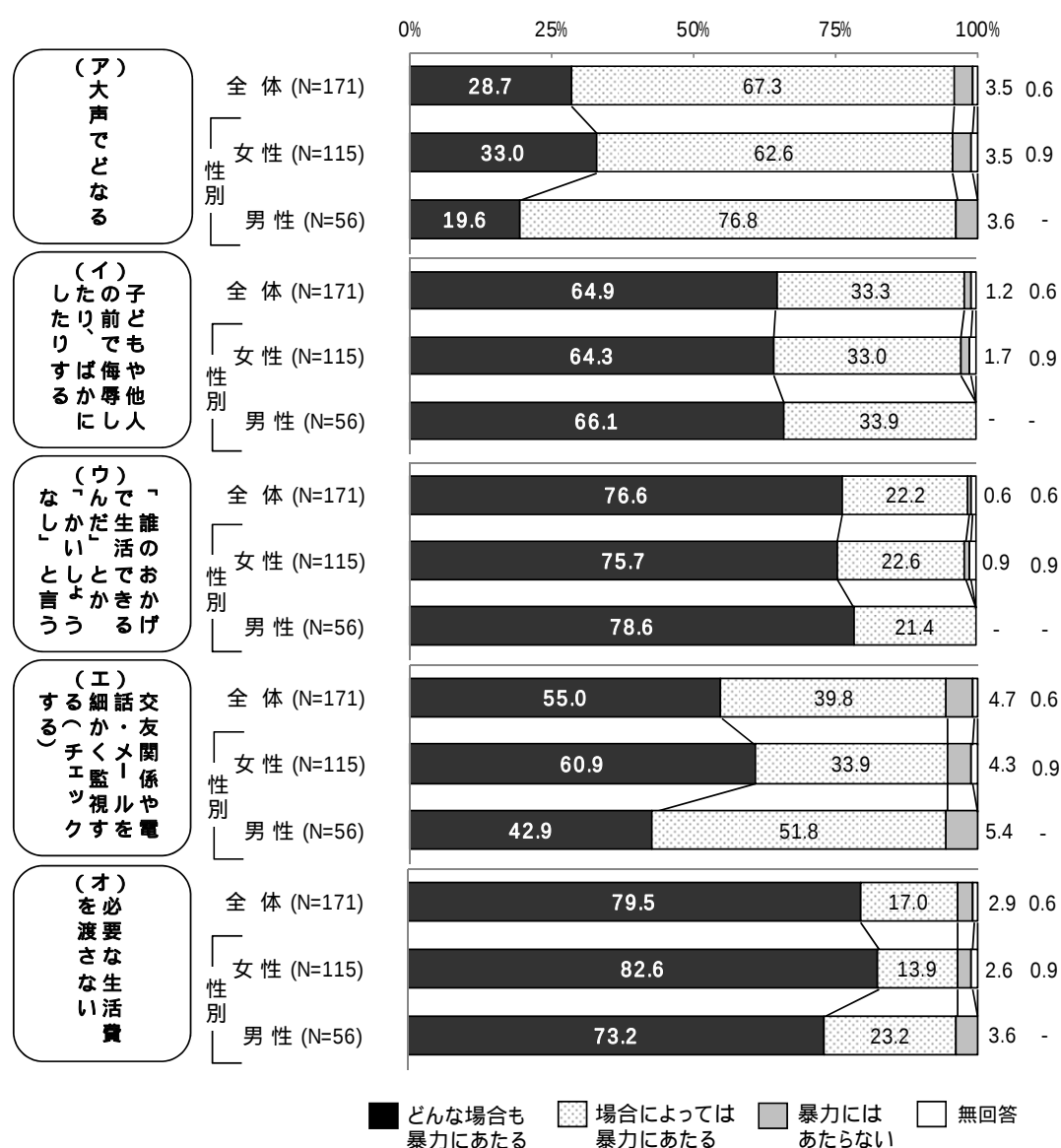
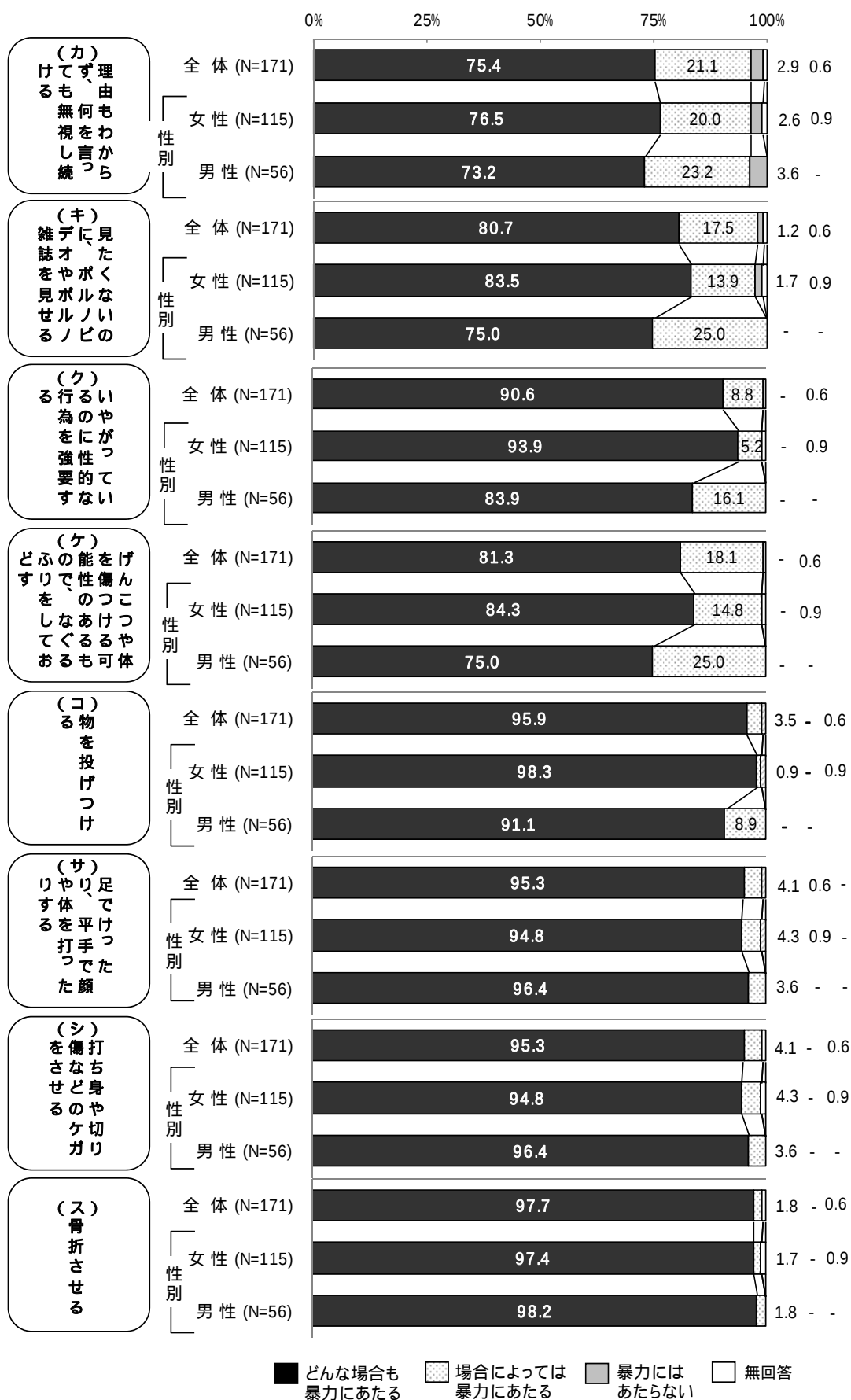


図4 - 6 (2) ドメスティック・バイオレンスと思う内容 [全体、性別]



精神的・経済的・性的・身体的暴力 13 項目をあげ、配偶者・パートナーとの間や恋人との間で行われた場合、それが暴力と思うかどうかたずねた。

「どんな場合も暴力にあたる」が多いのは「(コ)物を投げつける」(95.9%)「(サ)足でけったり、平手で顔や体を打ったりする」(95.3%)「(シ)打ち身や切り傷などのケガをさせる」(95.3%)「(ス)骨折させる」(97.7%)などの身体的暴力で9割以上と高率で、「(ア)大声でどなる」以外のすべての項目で「どんな場合も暴力にあたる」が最も高い割合となっている。「(ア)大声でどなる」は「場合によっては暴力にあたる」が67.3%と「どんな場合も暴力にあたる」(28.7%)を上回っている。

性別にみると、「(ア)大声でどなる」や「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」などでは「どんな場合も暴力にあたる」の割合で男女差が大きく、前者で13.4ポイント、後者で18ポイント男性の方が低い。またその他にも「(オ)必要な生活費を渡さない」「(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「(ク)いやがっているのに性的な行為を強要する」「(ケ)げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす」「(コ)物を投げつける」などの経済的暴力、性的暴力、身体的暴力についても男性の割合の方が低くなっている。

属性別特徴

年代別に「どんな場合でも暴力にあたる」の割合をみると、女性の20歳代と30歳代で「(ア)大声でどなる」「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」「(カ)理由もわからず、何を言っても無視し続ける」などにおいて他の年代に比べると低くなっており、さらに女性の20歳代では「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う」など言葉による暴力でも低くなっている。

男性の場合は、20歳代で「(ア)大声でどなる」、30歳代で「(カ)理由もわからず、何を言っても無視し続ける」「(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「(ク)いやがっているのに性的な行為を強要する」、40歳代で「(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする」「(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)」「(オ)必要な生活費を渡さない」などにおいて「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が他の年代に比べて低くなっている。

表4-5 ドメスティック・バイオレンスと思う内容〔全体、年代別〕

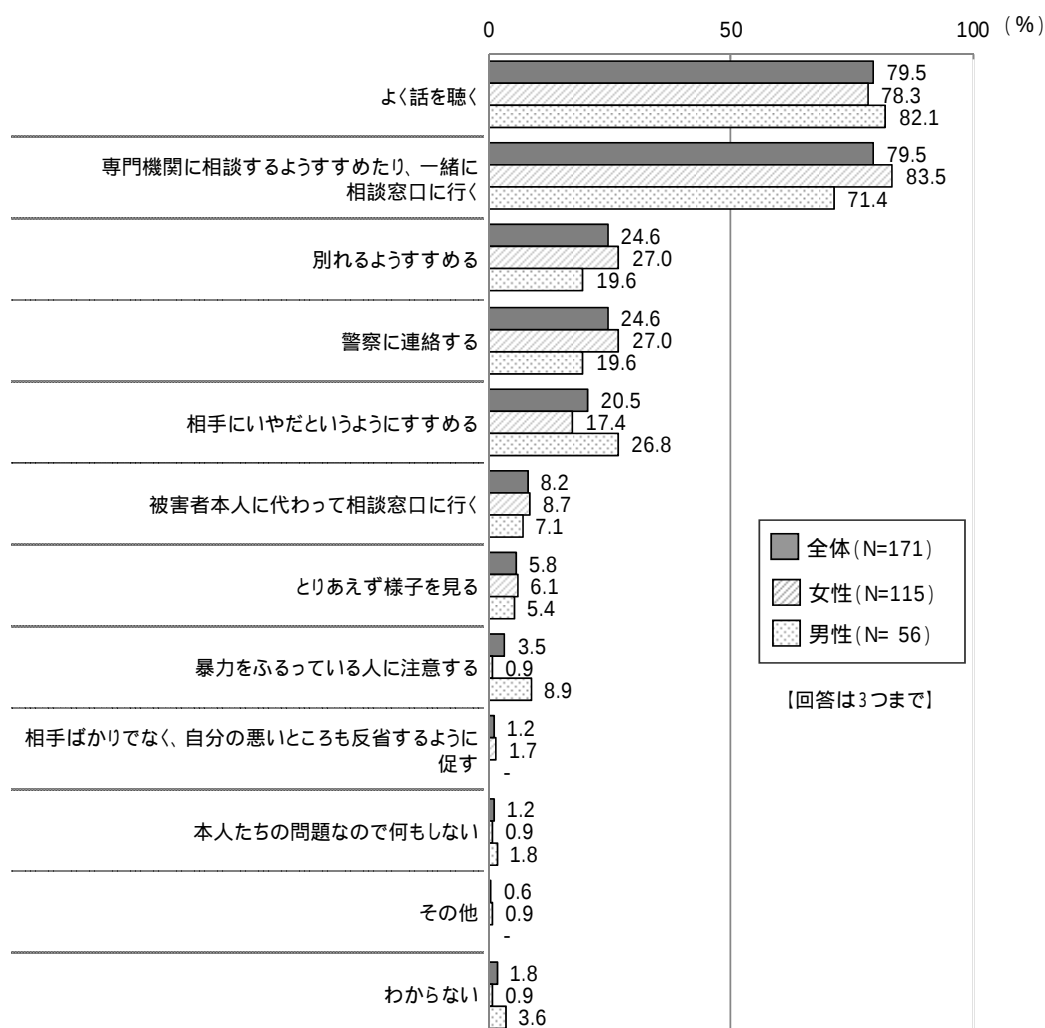
(%)																						
		標 本 数	(ア)大声でどなる				(イ)子どもや他人の前で侮辱したり、ばかにしたりする				(ウ)「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う				(エ)交友関係や電話・メールを細かく監視する(チェックする)				(オ)必要な生活費を渡さない			
			暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答	暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答	暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答	暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答	暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答
全 体		171 100.0	49 28.7	115 67.3	6 3.5	1 0.6	111 64.9	57 33.3	2 1.2	1 0.6	131 76.6	38 22.2	1 0.6	1 0.6	94 55.0	68 39.8	8 4.7	1 0.6	136 79.5	29 17.0	5 2.9	1 0.6
年 代 別	女性:20歳代	20	20.0	65.0	15.0	-	45.0	55.0	-	-	65.0	35.0	-	-	45.0	50.0	5.0	-	80.0	15.0	5.0	-
	女性:30歳代	25	28.0	68.0	4.0	-	64.0	28.0	8.0	-	80.0	16.0	4.0	-	44.0	44.0	12.0	-	76.0	20.0	4.0	-
	女性:40歳代	32	31.3	68.8	-	-	65.6	34.4	-	-	75.0	25.0	-	-	62.5	34.4	3.1	-	81.3	15.6	3.1	-
	女性:50歳以上	37	43.2	54.1	-	2.7	73.0	24.3	-	2.7	78.4	18.9	-	2.7	78.4	18.9	-	2.7	89.2	8.1	-	2.7
	男性:20歳代	15	6.7	93.3	-	-	80.0	20.0	-	-	86.7	13.3	-	-	40.0	53.3	6.7	-	86.7	13.3	-	-
	男性:30歳代	12	25.0	75.0	-	-	66.7	33.3	-	-	75.0	25.0	-	-	41.7	58.3	-	-	75.0	25.0	-	-
	男性:40歳代	16	25.0	68.8	6.3	-	56.3	43.8	-	-	75.0	25.0	-	-	37.5	56.3	6.3	-	62.5	31.3	6.3	-
	男性:50歳以上	12	25.0	66.7	8.3	-	66.7	33.3	-	-	83.3	16.7	-	-	58.3	33.3	8.3	-	75.0	16.7	8.3	-
無回答		2	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-
		標 本 数	(カ)理由もわからず、何を言っても無視し続ける				(キ)見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる				(ク)いやがっているのに性的な行為を強要する				(ケ)げんこつや体を傷つける可能性のあるもので、なぐるふりをしておどす				(コ)物を投げつける			
			暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答	暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答	暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答	暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答	暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答
全 体		171 100.0	129 75.4	36 21.1	5 2.9	1 0.6	138 80.7	30 17.5	2 1.2	1 0.6	155 90.6	15 8.8	-	1 0.6	139 81.3	31 18.1	-	1 0.6	164 95.9	6 3.5	-	1 0.6
年 代 別	女性:20歳代	20	65.0	25.0	10.0	-	80.0	15.0	5.0	-	85.0	15.0	-	-	95.0	5.0	-	-	100.0	-	-	-
	女性:30歳代	25	68.0	28.0	4.0	-	76.0	20.0	4.0	-	96.0	4.0	-	-	80.0	20.0	-	-	96.0	4.0	-	-
	女性:40歳代	32	84.4	15.6	-	-	87.5	12.5	-	-	96.9	3.1	-	-	84.4	15.6	-	-	100.0	-	-	-
	女性:50歳以上	37	81.1	16.2	-	2.7	86.5	10.8	-	2.7	94.6	2.7	-	2.7	81.1	16.2	-	2.7	97.3	-	-	2.7
	男性:20歳代	15	73.3	20.0	6.7	-	73.3	26.7	-	-	86.7	13.3	-	-	73.3	26.7	-	-	86.7	13.3	-	-
	男性:30歳代	12	58.3	41.7	-	-	66.7	33.3	-	-	75.0	25.0	-	-	66.7	33.3	-	-	91.7	8.3	-	-
	男性:40歳代	16	81.3	12.5	6.3	-	75.0	25.0	-	-	81.3	18.8	-	-	87.5	12.5	-	-	93.8	6.3	-	-
	男性:50歳以上	12	83.3	16.7	-	-	91.7	8.3	-	-	91.7	8.3	-	-	66.7	33.3	-	-	91.7	8.3	-	-
無回答		2	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-
		標 本 数	(サ)足でけったり、平手で顔や体を打ったりする				(シ)打ち身や切り傷などのケガをさせる				(ス)骨折させる											
			暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答	暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答	暴 力 に あ た る も	暴 場 合 に あ つ て は	な 暴 力 に は あ た ら	無 回 答								
全 体		171 100.0	163 95.3	7 4.1	-	1 0.6	163 95.3	7 4.1	-	1 0.6	167 97.7	3 1.8	-	1 0.6								
年 代 別	女性:20歳代	20	85.0	15.0	-	-	90.0	10.0	-	-	95.0	5.0	-	-								
	女性:30歳代	25	96.0	4.0	-	-	92.0	8.0	-	-	96.0	4.0	-	-								
	女性:40歳代	32	96.9	3.1	-	-	96.9	3.1	-	-	100.0	-	-	-								
	女性:50歳以上	37	97.3	-	-	2.7	97.3	-	-	2.7	97.3	-	-	2.7								
	男性:20歳代	15	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-								
	男性:30歳代	12	91.7	8.3	-	-	91.7	8.3	-	-	91.7	8.3	-	-								
	男性:40歳代	16	93.8	6.3	-	-	93.8	6.3	-	-	100.0	-	-	-								
	男性:50歳以上	12	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-								
無回答		2	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-								

(4) 相談を受けたときの対応

問13. あなたの身近な人から配偶者・パートナーや恋人から暴力を受けていると相談を受けたとき、どのように対応することが望ましいと思いますか。(○印は3つまで)

- ドメスティック・バイオレンスを受けていると相談を受けたとき「よく話を聴く」「専門機関に相談するようすすめたり、一緒に相談窓口に行く」が約8割。

図4-7 相談を受けたときの対応[全体、性別]



ドメスティック・バイオレンスを受けていると相談を受けたときの対応をたずねたところ、「よく話を聴く」と「専門機関に相談するようすすめたり、一緒に相談窓口に行く」が同率の79.5%で最も高くなっている。以下、「別れるようすすめる」「警察に連絡する」(同率24.6%)、「相手にいやだというようにすすめる」(20.5%)などが続いている。

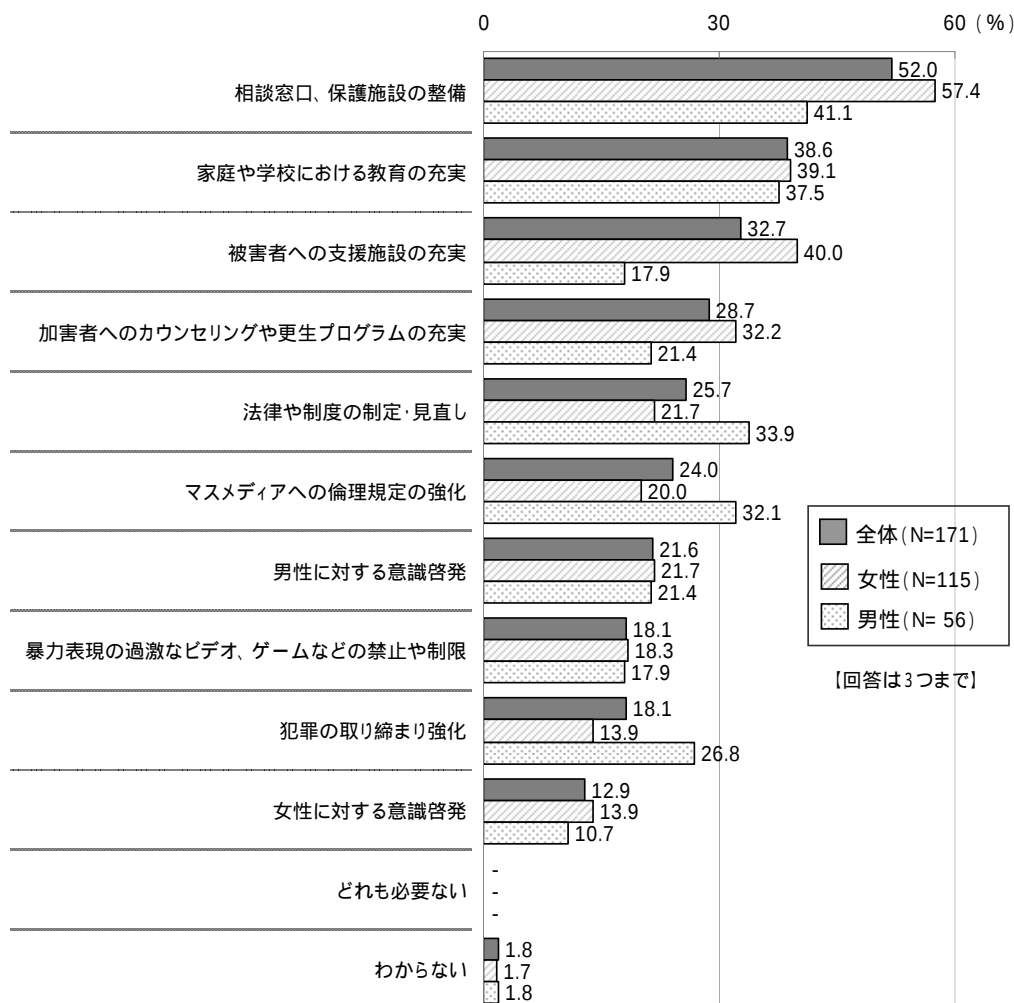
性別にみると、女性は「専門機関に相談するようすすめたり、一緒に相談窓口に行く」(女性83.5%、男性71.4%)や「別れるようすすめる」(同27.0%、19.6%)「警察に連絡する」(同27.0%、19.6%)などが男性よりも高く、男性は「相手にいやだというようにすすめる」(同17.4%、26.8%)や「暴力をふるっている人に注意する」(同0.9%、8.9%)などが女性よりも高くなっている。

3. セクハラやDVをなくすために必要なこと

問 14. あなたは、セクハラやDVをなくすためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(○印は3つまで)

- セクハラやDVをなくすために必要なことは「相談窓口、保護施設の整備」「家庭や学校における教育の充実」「被害者への支援施設の充実」など多岐にわたる。

図 4 - 8 セクハラやDVをなくすために必要なこと [全体、性別]



セクハラやドメスティック・バイオレンスをなくすために必要なことをたずねたところ、「相談窓口、保護施設の整備」が52.0%で最も高く、次いで「家庭や学校における教育の充実」(38.6%)、「被害者への支援施設の充実」(32.7%)、「加害者へのカウンセリングや更生プログラムの充実」(28.7%)、「法律や制度の制定・見直し」(25.7%)、「マスメディアへの倫理規定の強化」(24.0%)、「男性に対する意識啓発」(21.6%)など多岐にわたってあげられている。

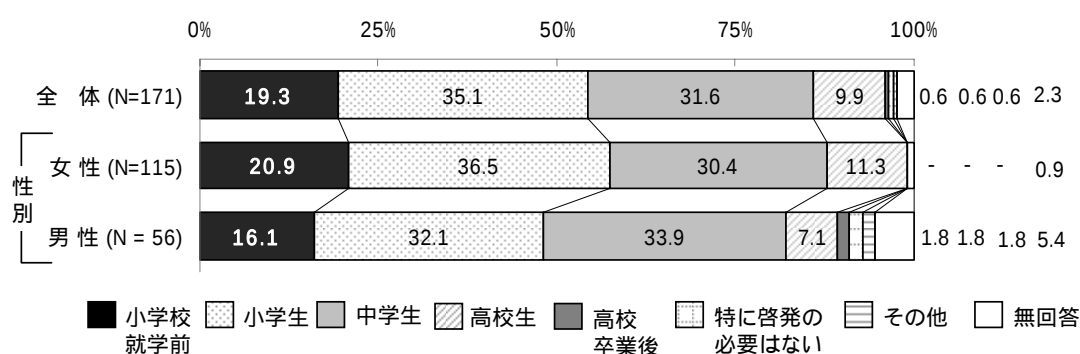
性別にみると、女性は「相談窓口、保護施設の整備」(女性57.4%、男性41.1%)、「被害者への支援施設の充実」(同40.0%、17.9%)、「加害者へのカウンセリングや更生プログラムの充実」(同32.2%、21.4%)が10ポイント以上、男性は「法律や制度の制定・見直し」(同21.7%、33.9%)、「マスメディアへの倫理規定の強化」(同20.0%、32.1%)、「犯罪の取り締まり強化」(同13.9%、26.8%)などが10ポイント以上高くなっている。

4．暴力防止の啓発をはじめる時期

問 15．セクハラやDVを防止するためには啓発が重要ですが、あなたは、いつごろから啓発することが大切だと思いますか。(○印は1つ)

- 暴力防止の啓発をはじめる時期は「小学生」(35.1%)、「中学生」(31.6%)が多く、中学生までの啓発が重要と考えている。

図4-9 暴力防止の啓発をはじめる時期 [全体、性別]



暴力を防止するための啓発をはじめる時期について「小学生」(35.1%)と「中学生」(31.6%)が3割台で多く、次いで「小学校就学前」が19.3%と、少なくとも中学生までの啓発が重要と考えている人が多い。

属性別特徴

性別にみると、女性は「中学生」までの啓発が重要と考えている人が9割近くいるが、男性は約8割とやや少ない。男女とも早い時期から啓発が重要と考えているが女性の方がより早い段階からの啓発を希望していることがわかる。

第5章 社会活動への参画について

1. 地域の役職に女性がつくことに対する考え方

問16 .あなたは、次にあげるような役職に、女性がどの程度つくことが望ましいと思いますか。
 (ア)～(キ)の各分野ごとに、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
 (○印は1つずつ)

●地域の役職については「男性と同じくらいにする」が、特に女性に多い。

図5 - 1 (1) 地域の役職に女性がつくことに対する考え方 [全体、性別]

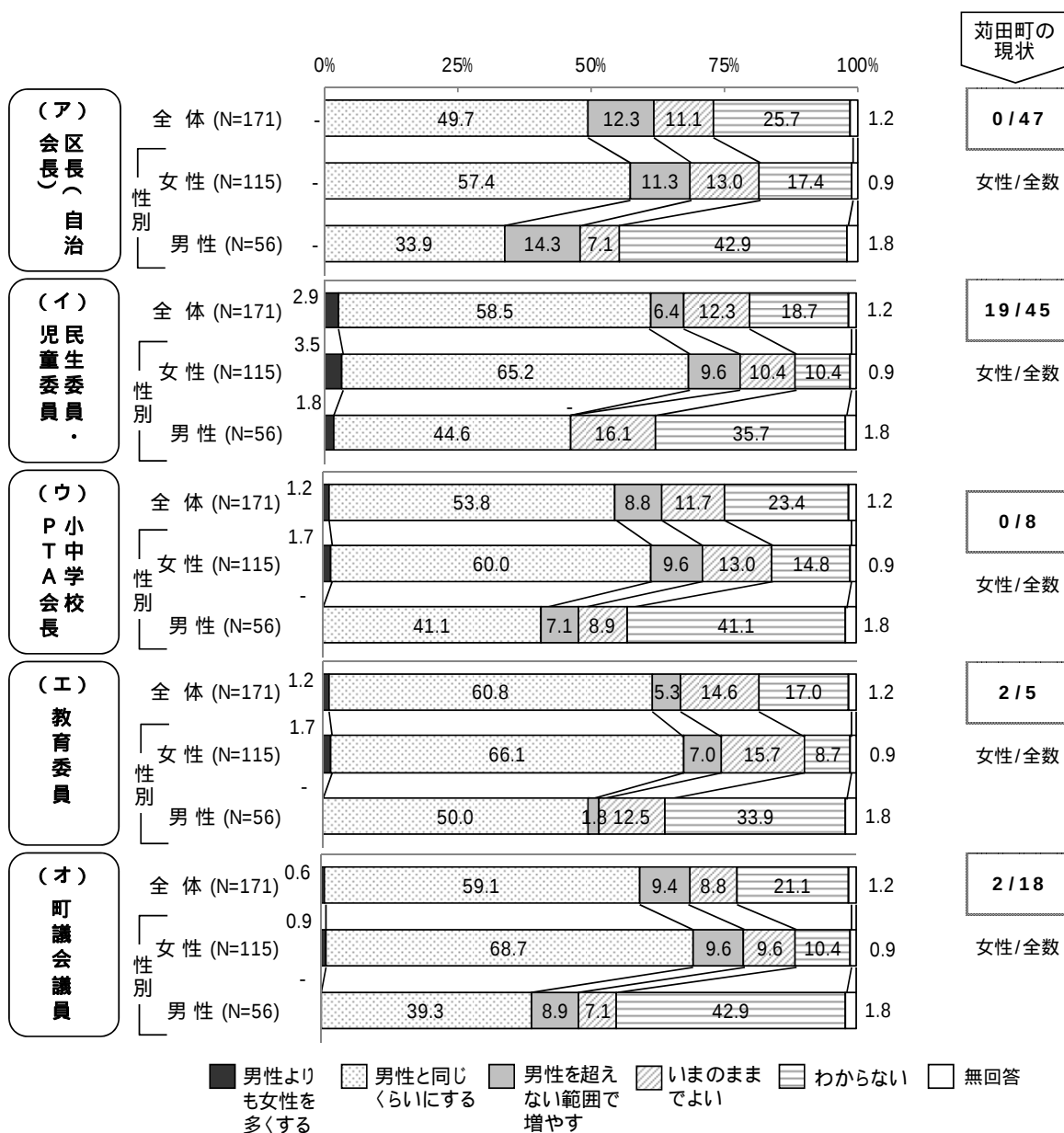
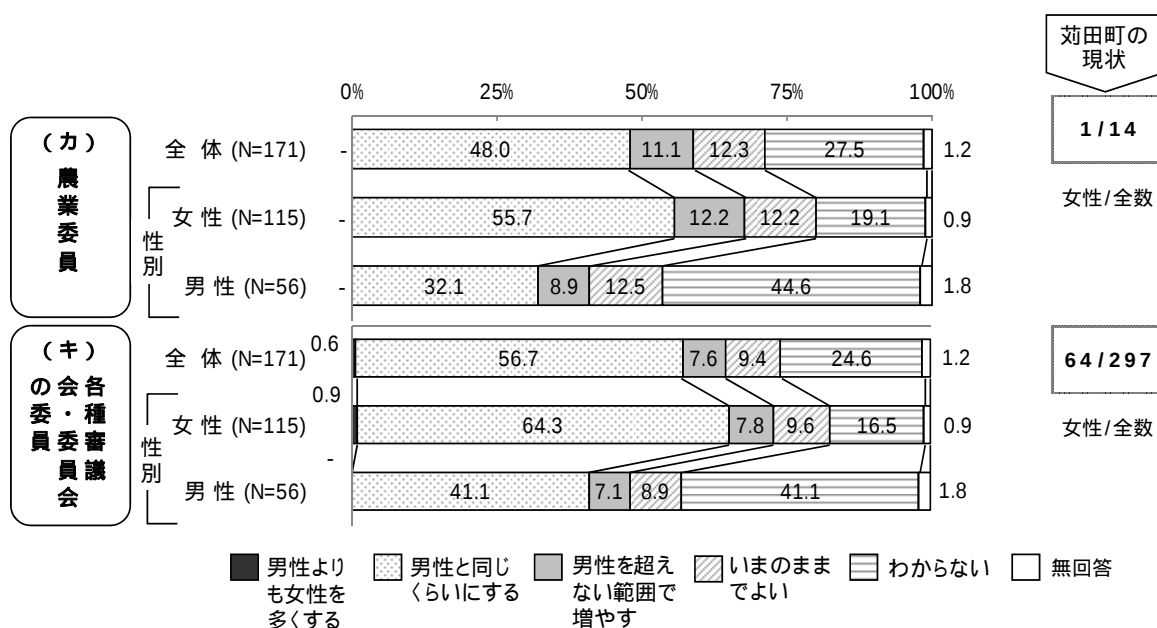


図5 - 1 (2) 地域の役職に女性がつくことに対する考え方 [全体、性別]



7つの役職について、現状の女性の人数を示し男女の割合をどの程度にするのがいいと思うかたずねた。役職ごとの現状の人数は「(ア) 区長 (自治会長)」47人中0人 (0%)、「(イ) 民生委員・児童委員」45人中19人 (42.2%)、「(ウ) 小中学校PTA会長」8人中0人 (0%)、「(エ) 教育委員」5人中2人 (40.0%)、「(オ) 町議会議員」18人中2人 (11.1%)、「(カ) 農業委員」14人中1人 (7.1%)、「(キ) 各種審議会・委員会の委員」297人中64人 (21.5%)である。

いずれの役職も「男性と同じくらいにする」が4割台から6割台で多く、「(エ) 教育委員」(60.8%)や「(オ) 町議会議員」(59.1%)、「(イ) 民生委員・児童委員」(58.5%)、「(キ) 各種審議会・委員会の委員」(56.7%)などは6割前後となっている。「男性よりも女性を多くする」はすべての役職について3%を下回り低率であった。

性別にみると、すべての役職において女性は「男性と同じくらいにする」の割合が男性よりも高く、「(オ) 町議会議員」(女性68.7%、男性39.3%)では29.4ポイントの差がある。その他「(カ) 農業委員」(同55.7%、32.1%)、「(ア) 区長 (自治会長)」(同57.4%、33.9%)、「(キ) 各種審議会・委員会の委員」(同64.3%、41.1%)、「(イ) 民生委員・児童委員」(同65.2%、44.6%)でも20ポイント以上の差がある。一方、男性はすべての役職で「わからない」の割合が女性を上回っている。

属性別特徴

年代別にみると、女性は20歳代、男性は30歳代でほとんどの役職において「男性と同じくらいにする」の割合が他の年代に比べて低くなっており、いずれの年代でも女性は「男性を超えない範囲で増やす」や「いまのままでよい」、男性は「わからない」が多くなっている。

表5 - 1 地域の役職に女性がつくことに対する考え方〔全体、年代別〕

(%)

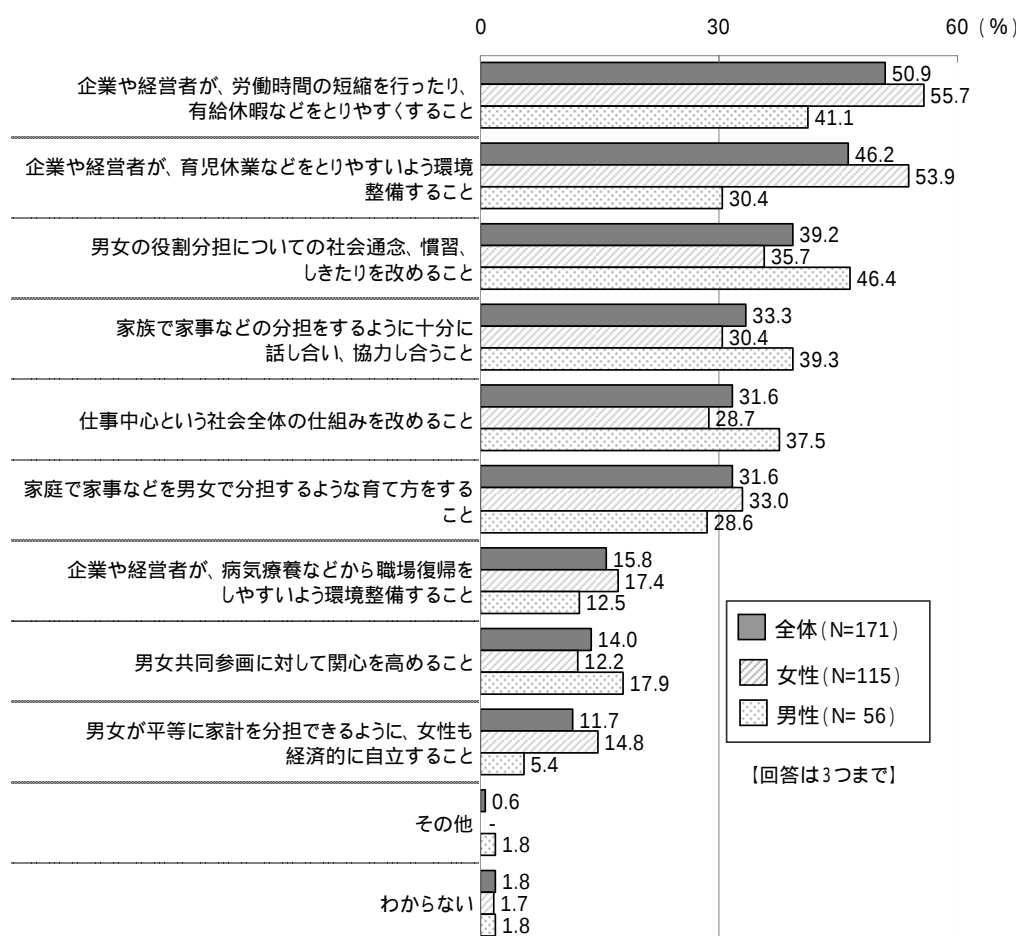
		標 本 数	(ア)区長(自治会長)						(イ)民生委員・児童委員						(ウ)小中学校PTA会長					
			を 男 性 よ り も 女 性 を 多 く す る	い 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 で 増 や す な い	い い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答	を 男 性 よ り も 女 性 を 多 く す る	い 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 で 増 や す な い	い い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答	を 男 性 よ り も 女 性 を 多 く す る	い 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 で 増 や す な い	い い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答
全 体		171 100.0	-	85 49.7	21 12.3	19 11.1	44 25.7	2 1.2	5 2.9	100 58.5	11 6.4	21 12.3	32 18.7	2 1.2	2 1.2	92 53.8	15 8.8	20 11.7	40 23.4	2 1.2
年代別	女性:20歳代	20	-	45.0	15.0	20.0	15.0	5.0	-	55.0	10.0	20.0	10.0	5.0	-	40.0	20.0	15.0	20.0	5.0
	女性:30歳代	25	-	48.0	20.0	12.0	20.0	-	-	64.0	12.0	12.0	12.0	-	-	60.0	8.0	24.0	8.0	-
	女性:40歳代	32	-	68.8	3.1	12.5	15.6	-	6.3	62.5	3.1	12.5	15.6	-	-	65.6	3.1	12.5	18.8	-
	女性:50歳以上	37	-	59.5	10.8	10.8	18.9	-	5.4	73.0	13.5	2.7	5.4	-	5.4	64.9	10.8	5.4	13.5	-
	男性:20歳代	15	-	40.0	13.3	13.3	33.3	-	6.7	46.7	-	13.3	33.3	-	-	53.3	6.7	6.7	33.3	-
	男性:30歳代	12	-	8.3	8.3	-	83.3	-	-	33.3	-	-	66.7	-	-	8.3	8.3	8.3	75.0	-
	男性:40歳代	16	-	43.8	18.8	-	37.5	-	-	50.0	-	18.8	31.3	-	-	56.3	6.3	-	37.5	-
	男性:50歳以上	12	-	41.7	16.7	8.3	25.0	8.3	-	50.0	-	25.0	16.7	8.3	-	41.7	8.3	16.7	25.0	8.3
無回答	2	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	
		標 本 数	(エ)教育委員						(オ)町議会議員						(カ)農業委員					
			を 男 性 よ り も 女 性 を 多 く す る	い 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 で 増 え す な い	い い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答	を 男 性 よ り も 女 性 を 多 く す る	い 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 で 増 え す な い	い い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答	を 男 性 よ り も 女 性 を 多 く す る	い 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 で 増 え す な い	い い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答
全 体		171 100.0	2 1.2	104 60.8	9 5.3	25 14.6	29 17.0	2 1.2	1 0.6	101 59.1	16 9.4	15 8.8	36 21.1	2 1.2	-	82 48.0	19 11.1	21 12.3	47 27.5	2 1.2
年代別	女性:20歳代	20	-	50.0	15.0	15.0	15.0	5.0	-	45.0	15.0	20.0	15.0	5.0	-	35.0	25.0	20.0	15.0	5.0
	女性:30歳代	25	-	64.0	8.0	20.0	8.0	-	-	64.0	12.0	12.0	12.0	-	-	52.0	16.0	12.0	20.0	-
	女性:40歳代	32	3.1	62.5	3.1	21.9	9.4	-	3.1	68.8	9.4	9.4	9.4	-	-	65.6	3.1	9.4	21.9	-
	女性:50歳以上	37	2.7	78.4	5.4	8.1	5.4	-	-	83.8	5.4	2.7	8.1	-	-	59.5	10.8	10.8	18.9	-
	男性:20歳代	15	-	53.3	6.7	6.7	33.3	-	-	40.0	13.3	13.3	33.3	-	-	40.0	6.7	20.0	33.3	-
	男性:30歳代	12	-	33.3	-	8.3	58.3	-	-	33.3	-	-	66.7	-	-	8.3	8.3	8.3	75.0	-
	男性:40歳代	16	-	56.3	-	12.5	31.3	-	-	50.0	6.3	-	43.8	-	-	43.8	6.3	6.3	43.8	-
	男性:50歳以上	12	-	58.3	-	16.7	16.7	8.3	-	33.3	16.7	8.3	33.3	8.3	-	33.3	16.7	8.3	33.3	8.3
無回答	2	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	50.0	-	-	
		標 本 数	(キ)各種審議会・委員会の委員																	
			を 男 性 よ り も 女 性 を 多 く す る	い 男 性 と 同 じ く ら	範 男 性 で 増 え す な い	い い ま の ま ま で よ	わ か ら な い	無 回 答												
全 体		171 100.0	1 0.6	97 56.7	13 7.6	16 9.4	42 24.6	2 1.2												
年代別	女性:20歳代	20	-	50.0	10.0	20.0	15.0	5.0												
	女性:30歳代	25	-	60.0	12.0	8.0	20.0	-												
	女性:40歳代	32	3.1	59.4	6.3	9.4	21.9	-												
	女性:50歳以上	37	-	78.4	5.4	5.4	10.8	-												
	男性:20歳代	15	-	46.7	6.7	13.3	33.3	-												
	男性:30歳代	12	-	25.0	-	-	75.0	-												
	男性:40歳代	16	-	56.3	6.3	-	37.5	-												
	男性:50歳以上	12	-	33.3	16.7	16.7	25.0	8.3												
無回答	2	-	50.0	-	50.0	-	-													

2. 男女がともに参画していくために必要なこと

問 17. 男女がともに仕事と家庭、社会活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に必要と思うものを選んでください。(○印は3つまで)

- 仕事と家庭、社会活動へ積極的に参画していくためには「労働時間の短縮、有給休暇の取得」「育児休業を取得しやすい環境整備」など企業や経営者への要望が上位。

図 5 - 2 男女がともに参画していくために必要なこと [全体、性別]



男女がともに仕事と家庭、社会活動などに積極的に参画するために必要なこととして「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」が 50.9%、「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」が 46.2%と企業や経営者への要望が上位にあがった。

性別にみると、女性は「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」(女性 55.7%、男性 41.1%)「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」(同 53.9%、30.4%)などが、男性は「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(同 35.7%、46.4%)「家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと」(同 30.4%、39.3%)「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」(同 28.7%、37.5%)などが高く、男女差が大きい。

属性別特徴

年代別にみると、女性の 30 歳代で「企業や経営者が、労働時間の短縮を行ったり、有給休暇などをとりやすくすること」「企業や経営者が、育児休業などをとりやすいよう環境整備すること」への要望が高く、20 歳代でも 5 割を超える支持がある。また 20 歳代では「家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと」(45.0%)、40 歳代では「家庭で家事などを男女で分担するような育て方をすること」(40.6%) など家庭での話し合いの必要性についての要望が高くなっている。

一方、男性の 20 歳代では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(60.0%) が高く、30 歳代では「家族で家事などの分担をするように十分に話し合い、協力し合うこと」「家庭で家事などを男女で分担するような育て方をすること」(同率 50.0%)、40 歳代では「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」(50.0%) が高い。

表 5 - 2 男女がともに参画していくために必要なこと [全体、年代別]

		(%)												
		標 本 数	男女の役割分担について の社会全体の仕 組みを改めること	仕事中心という社会 全体の仕事を改めること	企業や経営者が、労働時 間短縮を行ったり、有給休 暇をとったりやすくなるこ と	企業や経営者が、育児休 業などを取りやすいよう環 境整備すること	企業や経営者が、病気療 養などから職場復帰をし やすいよう環境整備するこ と	家族で家事などの分担を 協力し合うこと	男女が平等に家計を分担で きるように、女性も経済的 に自立すること	家庭で家事などを男女で分 担するような育て方をす ること	男女共同参画に対して関 心をもてること	その他	わからない	無 回 答
全 体		171 100.0	67 39.2	54 31.6	87 50.9	79 46.2	27 15.8	57 33.3	20 11.7	54 31.6	24 14.0	1 0.6	3 1.8	2 1.2
年 代 別	女性:20歳代	20	10.0	25.0	50.0	55.0	25.0	45.0	10.0	25.0	5.0	-	10.0	5.0
	女性:30歳代	25	32.0	24.0	76.0	64.0	20.0	24.0	8.0	32.0	8.0	-	-	-
	女性:40歳代	32	40.6	31.3	56.3	34.4	21.9	25.0	18.8	40.6	15.6	-	-	-
	女性:50歳以上	37	48.6	29.7	45.9	62.2	8.1	29.7	18.9	32.4	16.2	-	-	-
	男性:20歳代	15	60.0	33.3	33.3	33.3	6.7	40.0	-	20.0	6.7	-	6.7	-
	男性:30歳代	12	33.3	25.0	41.7	33.3	16.7	50.0	-	50.0	16.7	8.3	-	-
	男性:40歳代	16	37.5	50.0	31.3	25.0	18.8	37.5	18.8	25.0	31.3	-	-	-
	男性:50歳以上	12	50.0	33.3	58.3	33.3	8.3	33.3	-	25.0	16.7	-	-	8.3
	無回答	2	50.0	100.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-

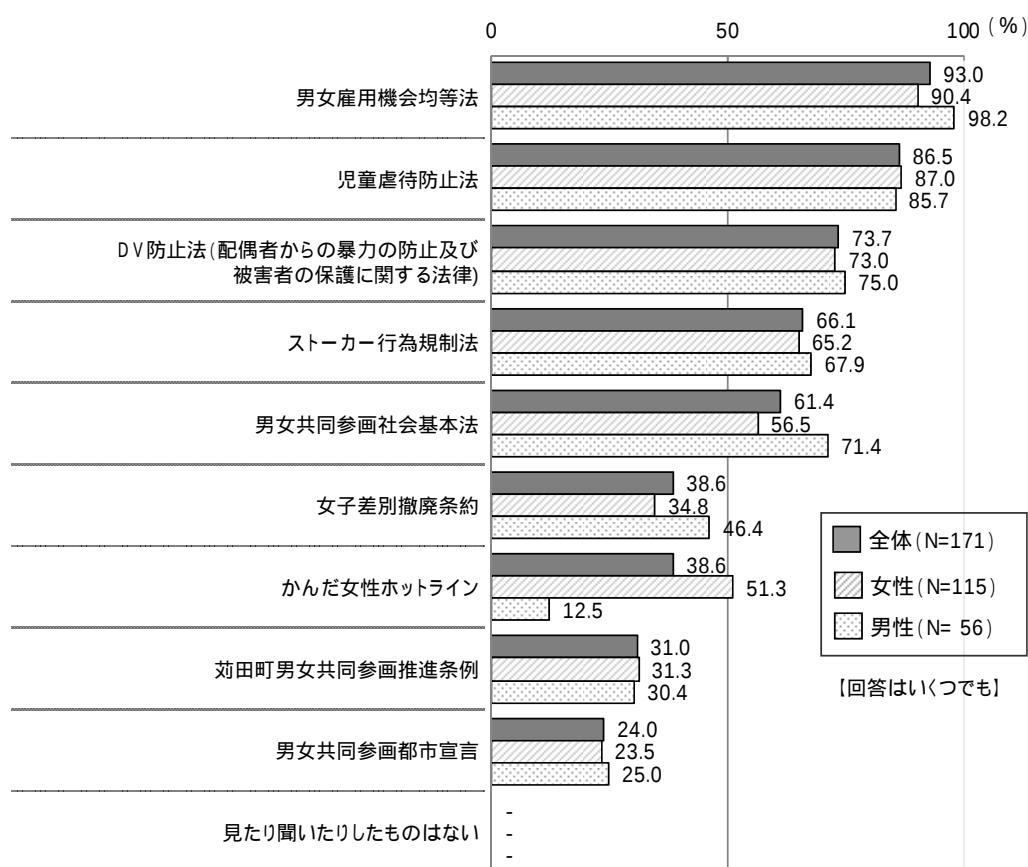
第6章 男女共同参画社会の実現に向けて

1. 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況

問18. 次の法律や制度などについて、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。(○印はいくつでも)

- 「男女雇用機会均等法」「児童虐待防止法」の認知は9割前後と高い。

図6-1 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況〔全体、性別〕



男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知についてたずねたところ、「男女雇用機会均等法」(93.0%)、「児童虐待防止法」(86.5%)、「DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)」(73.7%)は7割以上の認知となっている。また、「ストーカー行為規制法」(66.1%)、「男女共同参画社会基本法」(61.4%)なども6割を超える認知である。

性別にみると、女性は「かんだ女性ホットライン」(女性51.3%、男性12.5%)、男性は「男女共同参画社会基本法」(同56.5%、71.4%)、「女子差別撤廃条約」(同34.8%、46.4%)の認知が高く、差がみられる。

属性別特徴

年代別にみると、「苅田町男女共同参画推進条例」「男女共同参画都市宣言」「かんだ女性ホットライン」などは男女とも 40 歳以上での認知が高い。その他の法律や制度では年代による差はあまりないが、全体に男女とも 30 歳代で認知度がやや低い傾向にある。

性別役割分担意識別にみると、あまり大きな差はみられないが、「DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）」「児童虐待防止法」「女性差別撤廃条約」などにおいて容認しない人の認知が高い傾向にある。

表 6 - 1 男女共同参画社会関連の法律や制度などの認知状況
[全体、年代別、性別役割分担意識別]

		(%)													
		標 本 数	女 子 差 別 撤 廃 条 約	男 女 雇 用 機 会 均 等 法	男 女 共 同 参 画 社 会 基 本 法	ス ト ー カ ー 行 為 規 制 法	の 暴 力 の 防 止 及 び 被 害 者 の 保 護 に 関 する 法 律	児 童 虐 待 防 止 法	条 例 苅 田 町 男 女 共 同 参 画 推 進	男 女 共 同 参 画 都 市 宣 言	か ん だ 女 性 ホ ッ ト ラ イ ン	見 た り 聞 い た り し た も の は な い	無 回 答		
全 体		171 100.0	66 38.6	159 93.0	105 61.4	113 66.1	126 73.7	148 86.5	53 31.0	41 24.0	66 38.6	- -	- -		
年 代 別	女性:20歳代	20	50.0	90.0	65.0	45.0	70.0	90.0	15.0	10.0	45.0	-	-		
	女性:30歳代	25	20.0	80.0	56.0	68.0	68.0	80.0	20.0	16.0	44.0	-	-		
	女性:40歳代	32	28.1	96.9	56.3	75.0	75.0	87.5	34.4	21.9	56.3	-	-		
	女性:50歳以上	37	43.2	91.9	54.1	64.9	75.7	91.9	45.9	37.8	54.1	-	-		
	男性:20歳代	15	53.3	93.3	86.7	66.7	66.7	93.3	13.3	33.3	6.7	-	-		
	男性:30歳代	12	25.0	100.0	41.7	83.3	75.0	83.3	-	8.3	8.3	-	-		
	男性:40歳代	16	50.0	100.0	62.5	62.5	68.8	81.3	43.8	25.0	18.8	-	-		
	男性:50歳以上	12	58.3	100.0	91.7	58.3	91.7	83.3	66.7	33.3	16.7	-	-		
	無回答	2	-	100.0	50.0	100.0	100.0	50.0	-	-	50.0	-	-		
担 意 識 別 性 別 役 割 分	賛成	4	50.0	100.0	75.0	100.0	75.0	100.0	-	25.0	50.0	-	-		
	どちらかといえば賛成	28	28.6	92.9	67.9	64.3	71.4	75.0	17.9	17.9	28.6	-	-		
	どちらかといえば反対	53	34.0	96.2	50.9	62.3	67.9	83.0	28.3	17.0	32.1	-	-		
	反対	65	47.7	90.8	64.6	69.2	80.0	90.8	36.9	30.8	44.6	-	-		
	わからない	18	33.3	88.9	66.7	66.7	66.7	94.4	44.4	27.8	50.0	-	-		
	無回答	3	33.3	100.0	66.7	33.3	100.0	100.0	33.3	33.3	33.3	-	-		

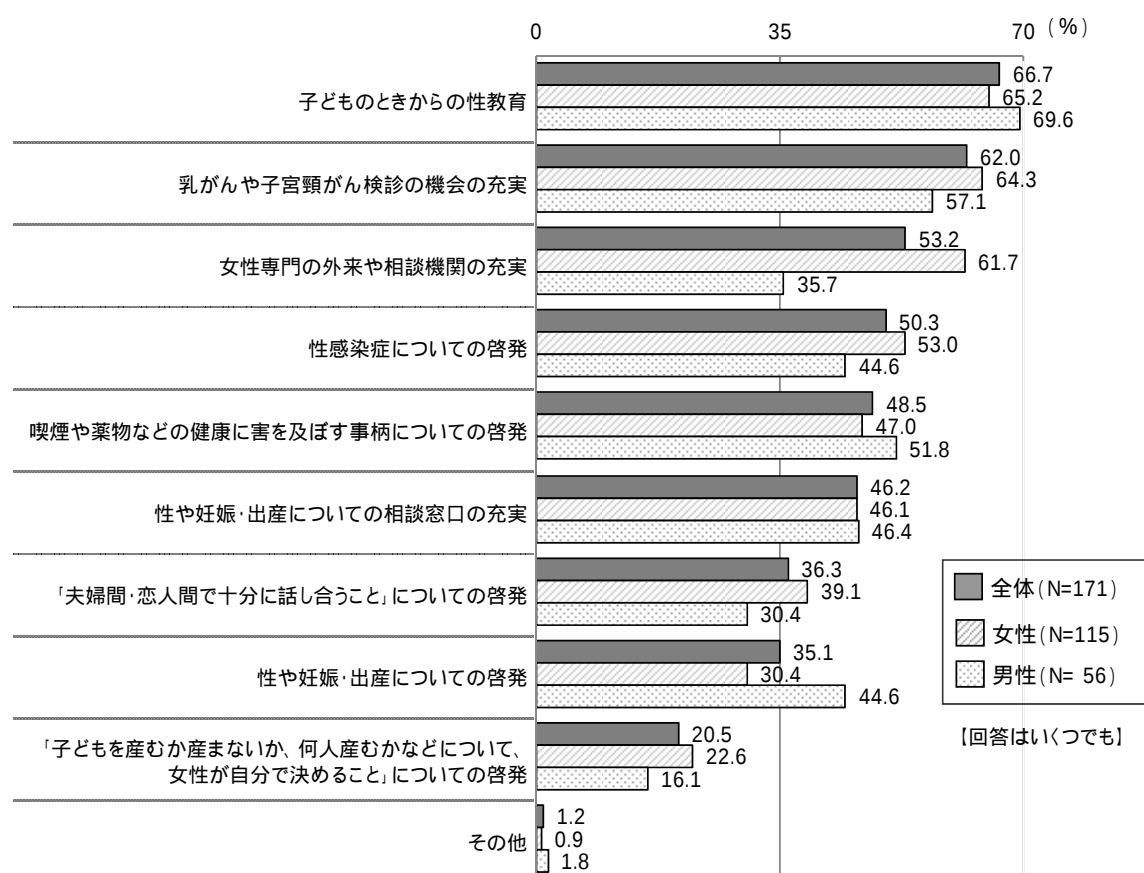
2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ のために必要なこと

問 19. 「生涯にわたる性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）」についておたずねします。【男女ともお答えください】

女性の健康を守るために、性や妊娠・出産について、どのようなことが必要だと思いますか。（○印はいくつでも）

- 女性の健康を守るために必要なこととして、「子どものときからの性教育」「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」「女性専門の外来や相談機関の充実」などが上位。

図 6 - 2 リプロダクティブ・ヘルス/ライツのために必要なこと [全体、性別]



女性の健康を守るために必要なことは「子どもときからの性教育」(66.7%)、「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」(62.0%)、「女性専門の外来や相談機関の充実」(53.2%)、「性感染症についての啓発」(50.3%)、「喫煙や薬物などの健康に害を及ぼす事柄についての啓発」(48.5%)、「性や妊娠・出産についての相談窓口の充実」(46.2%)など多岐にわたってあげられている。

性別にみると、女性は「女性専門の外来や相談機関の充実」が61.7%と、男性の35.7%を大きく上回っている。その他に「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」(女性64.3%、男性57.1%)、「性感染症についての啓発」(同53.0%、44.6%)、「夫婦間・恋人間で十分に話し合うこと」についての啓発」(同39.1%、30.4%)などが約7～9ポイント高い。

属性別特徴

年代別にみると、女性の20歳代で「性や妊娠・出産についての相談窓口の充実」「夫婦間・恋人間で十分に話し合うこと」についての啓発「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」「女性専門の外来や相談機関の充実」などは割合が高い。特に「乳がんや子宮頸がん検診の機会の充実」と「女性専門の外来や相談機関の充実」は7割以上となっている。

「喫煙や薬物などの健康に害を及ぼす事柄についての啓発」「子どものときからの性教育」などは男女とも年齢が高い層で割合が高い傾向にある。

表6-3 リプロダクティブ・ヘルス/ライツのために必要なこと〔全体、年代別〕

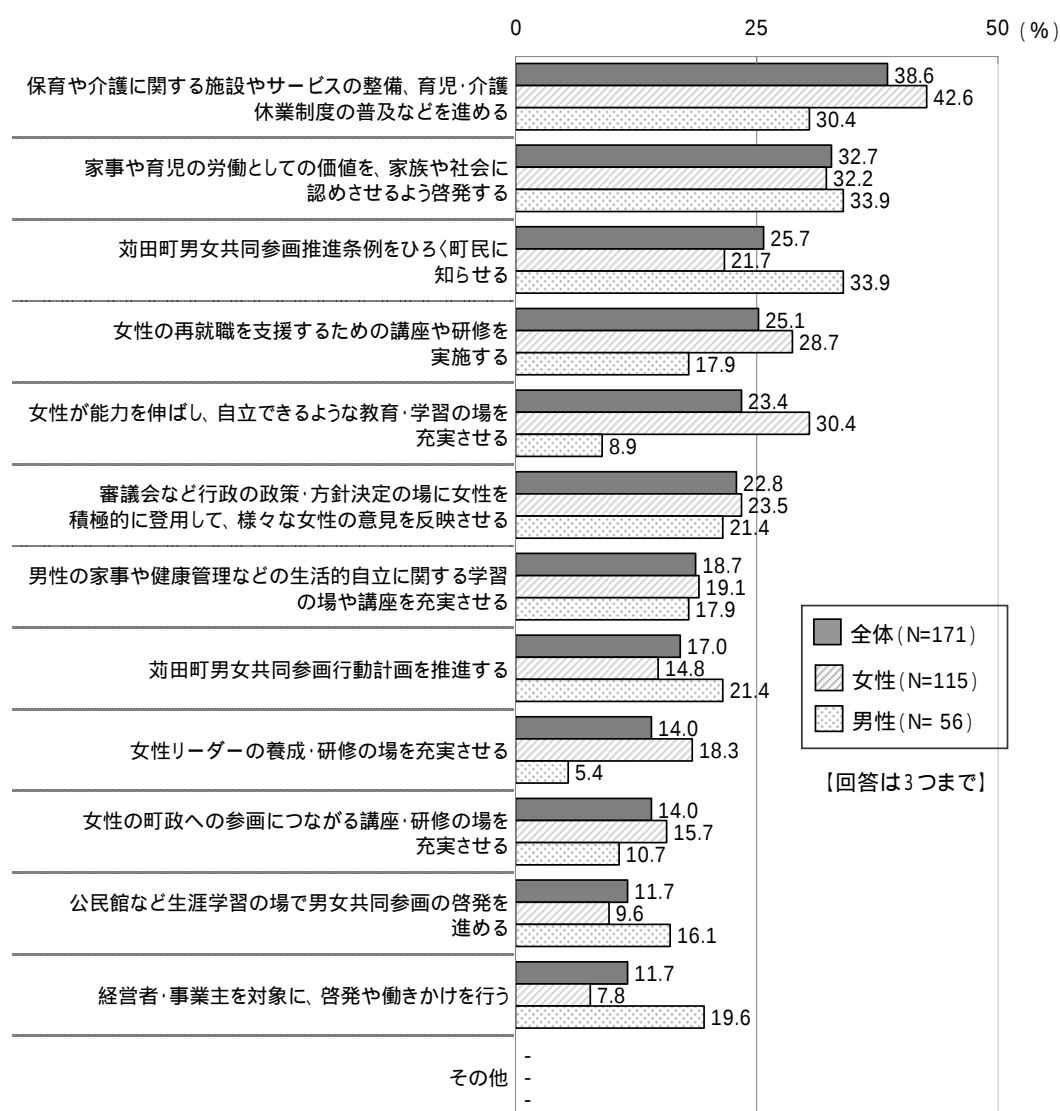
(%)														
		標 本 数	性 や 妊 娠 ・ 出 産 に つ い て の 啓 発	性 や 妊 娠 ・ 出 産 に つ い て の 相 談 窓 口 の 充 実	人 産 む か な ど に つ い て の 啓 発	「 子 ど も を 産 む か ・ 産 ま な い か ・ 何 に つ い て 産 む か 」 の 啓 発	「 夫 婦 間 ・ 恋 人 間 で 十 分 に 話 し 合 う こ と 」 に つ い て の 啓 発	子 ど も の と き か ら の 性 教 育	性 感 染 症 に つ い て の 啓 発	喫 煙 や 薬 物 な ど の 健 康 に 害 を 及 ぼ す 事 柄 に つ い て の 啓 発	乳 が ん や 子 宮 頸 が ん 検 診 の 機 会 の 充 実	女 性 専 門 の 外 来 や 相 談 機 関 の 充 実	そ の 他	無 回 答
全 体		171 100.0	60 35.1	79 46.2	35 20.5	62 36.3	114 66.7	86 50.3	83 48.5	106 62.0	91 53.2	2 1.2	- -	
年 代 別	女性:20歳代	20	35.0	60.0	15.0	50.0	45.0	60.0	40.0	75.0	70.0	5.0	- -	
	女性:30歳代	25	20.0	44.0	28.0	36.0	60.0	56.0	36.0	64.0	68.0	-	- -	
	女性:40歳代	32	37.5	34.4	21.9	40.6	62.5	37.5	43.8	56.3	43.8	-	- -	
	女性:50歳以上	37	29.7	48.6	24.3	35.1	83.8	59.5	59.5	64.9	67.6	-	- -	
	男性:20歳代	15	66.7	40.0	26.7	33.3	53.3	33.3	60.0	40.0	33.3	-	- -	
	男性:30歳代	12	25.0	50.0	8.3	25.0	66.7	58.3	41.7	66.7	50.0	-	- -	
	男性:40歳代	16	31.3	31.3	18.8	31.3	75.0	31.3	43.8	56.3	31.3	6.3	- -	
	男性:50歳以上	12	50.0	75.0	8.3	33.3	83.3	58.3	58.3	75.0	33.3	-	- -	
無回答		2	50.0	50.0	-	-	50.0	100.0	100.0	50.0	50.0	-	- -	

3. 男女共同参画社会の実現のための行政施策

問 20 . 苅田町が「男女共同参画社会」づくりを進めるためには、どのようなことに取り組むことが重要だと思いますか。(○印は3つまで)

- 男女共同参画社会実現のために「保育や介護の施設やサービスの整備、制度の普及を進める」「家事や育児の労働としての価値を認めさせる」が上位。

図 6 - 4 男女共同参画社会の実現のための行政施策 [全体、性別]



男女共同参画社会づくりを進めるために町が取り組む施策についてたずねたところ、「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」が38.6%で最も高く、次いで「家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する」32.7%、「苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」25.7%、「女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する」25.1%、「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる」23.4%、「審議会など行政の施策・方針決定の場に女性を積極的に登用して、様々な女性の意見を反映させる」22.8%などがあげられている。

性別にみると、女性は「女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実させる」（同 30.4%、8.9%）、「女性リーダーの養成・研修の場を充実させる」（同 18.3%、5.4%）、「保育や介護に関する施設やサービスの整備、育児・介護休業制度の普及などを進める」（女性 42.6%、男性 30.4%）、「女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する」（同 28.7%、17.9%）などが男性よりも 10 ポイント以上高く、男性は「苅田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」（同 21.7%、33.9%）、「経営者・事業主を対象に、啓発や働きかけを行う」（同 7.8%、19.6%）、「苅田町男女共同参画行動計画を推進する」（同 14.8%、21.4%）、「公民館など生涯学習の場で男女共同参画の啓発を進める」（同 9.6%、16.1%）などが約 6～12 ポイント高くなっている。女性は女性リーダーの養成や教育に、男性は行動計画や条例の活用、啓発などに取り組むべきと考える傾向がある。

属性別特徴

年代別にみると、「家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する」「女性の再就職を支援するための講座や研修を実施する」などは女性の年齢が低い層で高いが、「家事や育児の労働としての価値を、家族や社会に認めさせるよう啓発する」は男性の 50 歳以上でも 41.7% と高くなっている。「審議会など行政の政策・方針決定の場に女性を積極的に登用して、様々な女性の意見を反映させる」「荻田町男女共同参画推進条例をひろく町民に知らせる」「公民館など生涯学習の場で男女共同参画の啓発を進める」などは男女とも年齢が高い層で高い。

表6-4 男女共同参画社会の実現のための行政施策「全体、年代別」

																(%)									
		標 本 数	る く 町 民 に 知 ら せ る	進 す る	の 場 に 女 性 の 意 見 を 反 映 さ せ る	審 議 会 な ど 行 政 の 政 策 ・ 方 針 決 定	同 参 画 の 啓 発 を 進 め る	公 民 館 な ど 生 涯 学 習 の 場 で 男 女 共	充 実 さ せ る	女 性 の 町 政 へ の 参 画 に つ な が る 講 座 ・ 研 修 の 場 を 充 実 さ せ る	よ う な 教 育 ・ 学 習 の 場 を 充 実 さ せ る	啓 発 す る	を 、 家 族 や 社 会 に 認 め さ せ る よ う	家 事 や 育 児 の 労 働 と し て の 価 値	働 き か け を 行 う	経 営 者 ・ 事 業 主 を 対 象 に 、 啓 発 や	充 実 さ せ る	男 性 の 自 立 に 関 する 学 習 の 場 や 講 座 を	座 や 研 修 を 実 施 す る	女 性 の 再 就 職 を 支 援 す る た め の 講	普 及 な ど を 進 め る	ス の 整 備 ・ 育 児 ・ 介 護 休 業 制 度 の	保 育 や 介 護 に 関 する 施 設 や サ ー ビ	そ の 他	無 回 答
全 体		171 100.0	44 25.7	29 17.0	39 22.8	20 11.7	24 14.0	24 14.0	40 23.4	56 32.7	20 11.7	32 18.7	43 25.1	66 38.6	- -	4 2.3									
年 代 別	女性：20歳代	20	15.0	10.0	10.0	-	20.0	10.0	25.0	50.0	5.0	15.0	35.0	45.0	-	10.0									
	女性：30歳代	25	16.0	12.0	24.0	4.0	16.0	16.0	24.0	44.0	8.0	28.0	36.0	36.0	-	-									
	女性：40歳代	32	25.0	15.6	25.0	18.8	18.8	6.3	43.8	31.3	12.5	12.5	31.3	50.0	-	-									
	女性：50歳以上	37	27.0	18.9	29.7	10.8	18.9	27.0	24.3	13.5	5.4	21.6	16.2	40.5	-	2.4									
	男性：20歳代	15	20.0	13.3	13.3	6.7	13.3	6.7	20.0	46.7	33.3	6.7	13.3	13.3	-	-									
	男性：30歳代	12	25.0	16.7	8.3	8.3	8.3	8.3	-	25.0	8.3	25.0	25.0	33.3	-	8.3									
	男性：40歳代	16	43.8	25.0	31.3	31.3	-	12.5	-	25.0	18.8	18.8	18.8	37.5	-	-									
男性：50歳以上	12	50.0	33.3	33.3	16.7	-	16.7	8.3	41.7	16.7	25.0	16.7	33.3	-	-										
無回答		2	-	-	-	-	-	-	100.0	50.0	-	-	50.0	50.0	-	-									